公益財団法人 日本ハンドボール協会編　平成27年5月1日発行（毎月1回1日発行）通巻551号

ハンドボール

特集

第15回 女子アジア選手権
（2015年女子世界選手権予選）
第39回 日本リーグプレーオフ
第38回 全国高等学校選抜大会

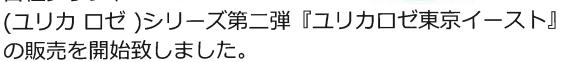
MAY. 2015 No.551

〔表紙写真〕第39回日本ハンドボールリーグプレーオフ、男子MVP大同特殊鋼・久保侑生（左）、女子MVP北國銀行・塩田沙代（右）

公益財団法人 日本ハンドボール協会
http://www.handball.or.jp/

販売から賃貸管理までトータルサポート

私達、株式会社ユリカコーポレーションは、女子ハンドボールを応援しています!!

私たち株式会社ユリカコーポレーションは、お客様方の将来設計において、不動産を用いた資産づくり・将来的な安定収入を得ていただくご提案をさせていただいております。
創業以来、多くのお客様に支えられ今日に至りました。
心より感謝申し上げます。
2015年のスタートとしまして、自社ブランド『 YURIKA ROSE

(ユリカ ロゼ)シリーズ第二弾『ユリカロゼ東京イースト』の販売を開始致しました。
東京スカイツリーや隅田川の花火など、眺望の良い立地！
年明け早々、とても評判の良い物件となっております。

YURIKA ROSE

http://yurika-co.jp/

株式会社ユリカコーポレーション

〒101-0041 東京都千代田区神田須田町2-6-2 神田セントラルプラザ1202

TEL：03-3525-8986 / FAX：03-5295-8188

第15回
女子アジア選手権
2015年女子世界選手権予選

【最終順位】
優勝：韓国
2位：日本
3位：中国
4位：カザフスタン
5位：ウズベキスタン
6位：イラン
7位：インド
8位：香港
9位：インドネシア

日本は2位で世界選手権の出場権を獲得！

大会期間：2015年3月14日（土）～23日（月）
開催地：インドネシア（ジャカルタ）

■選手団名簿

役職	名前	所属
団長	市原 則之	公益財団法人 日本ハンドボール協会
監督	栗山 雅倫	公益財団法人 日本ハンドボール協会
コーチ	大森　聡	公益財団法人 日本ハンドボール協会
ドクター	永澤 雷太	ながさわ整形外科クリニック
トレーナー	高野内 俊也	一般財団法人 日本予防医学協会
情報分析	嘉数 陽介	公益財団法人 日本ハンドボール協会

背番号	名前	所属
1	飛田 季美子	ソニーセミコンダクタ
3	本多　恵	SK Aarhus（DEN）
5	田中 美音子	ソニーセミコンダクタ
6	石野 実加子	北國銀行
7	錦織　新	ソニーセミコンダクタ
9	横嶋 かおる	北國銀行
10	藤井 紫緒	オムロン
14	横嶋　彩	北國銀行
15	角南　唯	北國銀行
17	東濱 裕子	オムロン
18	田邉 夕貴	Fehērvár KC（HUN）
21	相沢 莉乃	オムロン
22	藤間 かおり	オムロン
24	原　希美	三重バイオレットアイリス
26	川村 杏奈	ソニーセミコンダクタ
27	塩田 沙代	北國銀行
28	永田 しおり	オムロン
29	松村 杏里	広島メイプルレッズ

女子世界選手権 11 大会連続出場を果たして

第 15 回女子アジアハンドボール選手権大会を終えて

日本選手団団長　市原 則之

世界各国の治安不安で緊張する世界情勢の中、第 15 回女子アジアハンドボール選手権大会は、去る 3 月 14 日から 23 日までの 10 日間にわたりインドネシアの首都ジャカルタで開催された。この大会は、本年 12 月にデンマークで開催される第 22 回世界女子ハンドボール選手権大会のアジア予選を兼ねる重要な大会である。

世界女子ハンドボール選手権大会は、第 1 回大会が 1957 年にユーゴスラビアで開催され、前回 2013 年のセルビア大会で 21 回を数え 58 年の歴史を重ねる。

この歴史の中で、第 1 回から 10 回の韓国大会まで、緊迫する世界情勢の影響か大会が 2 年から 6 年という不規則な間隔で開催されていたが、その後 10 回大会以降は現在の 2 年間隔に定着し今日に至っている。

第 1 回大会の優勝国はチェコスロバキアで、2 回大会以降ルーマニア、ハンガリー、東ドイツ、ユーゴスラビア、ソビエトが優勝しているように当初は東欧諸国の競技力の高さを示していたが、第 12 回大会で韓国が優勝してからはワールドワイドに競技が普及し、前回 21 回大会は南アメリカ大陸のブラジルが優勝した。

日本は 1962 年にルーマニアで開催された第 2 回大会が初出場で、過去 21 大会中 16 大会に出場し、成績は第 3 回の西ドイツ大会の 7 位が最高であった。

1995 年のオーストリア／ハンガリー共催大会から 10 大会連続出場の前回のセルビア大会は、24 チーム中 14 位という成績であったが、同じ予選リーグで戦ったブラジル、セルビア、デンマークにそれぞれ僅差の善戦をし、その 3 チームが決勝トーナメントに進み、1 位、2 位、3 位を独占するという日本にとっては大変惜しまれる予選敗退であった。しかし、日本の競技力は確実に向上し、その戦術を世界が注目した。

そして昨年 12 月の仁川のアジア大会では打倒韓国を期して一丸で戦ったが、今や世界チャンピオンの実力を有す韓国の底力にまたも屈した。

こうした経緯を踏まえて今大会に出場する日本代表選手団は、世界選手権の出場権獲得は勿論のこと、本年 10 月に名古屋で開催されるリオデジャネイロ・オリンピックアジア予選会を勝ち抜くための前哨戦とし、更には 2019 年世界女子ハンドボール選手権熊本大会と 2020 年東京オリンピックのメダル獲得を確実にするためのスタートとしなければならない。

今大会は、参加 9 か国が A・B の 2 グループに分かれて予選ラウンドを戦い、各グループの上位 2 か国が本戦ラウンド戦に進み、3 位以内が世界選手権の出場権を得る。

日本は韓国と同じグループとなり、イラン、インドの 4 か国が A グループに属した。

日本チームの目標は、予選ラウンドを堅実に 2 位以内で通過し、本戦ラウンドで 3 位以内を確保して世界選手権の出場権を獲得することである。

これに挑む栗山ジャパンは、昨年の仁川のアジア大会で戦力不足気味ながらも見事銀メダルを獲得したメンバーを更にスケールアップさせるチーム編成を行った。

海外で活躍中の本多恵（デンマーク／前ソニーセミコンダクタ）、石立真悠子（ハンガリー／前オムロン）、田邉夕貴（ハンガリー／前北國銀行）を呼び戻し、国内組では、家庭の事情で仁川アジア大会を欠場した日本代表のエースアタッカー藤井紫緒（オムロン）の復帰がかない、また、過日の日本リーグプレーオフで最優秀選手に輝いた進境著しい北國銀行の塩田沙代を加えて厚みの増す布陣となった。

その後、海外組の石立がトレーニング中の負傷で欠場を余儀なくされるも、その代役として、超ベテラン百戦錬磨の田中美音子を再び代表に登用した。

この田中美音子選手の代表復帰は、単に負傷選手の代役として呼び戻したのではなく、彼女の長年にわたる代表選手としての姿勢や、40 歳になっても未だ現役第一線で活躍できる心構えなどが、後輩選手に有形無形の財産として受け継いで欲しいと願う栗山監督の意図が伺える。

そして、このチームを指揮する栗山監督の補佐として高岡向陵高校女子監督の大森聡氏をコーチに招聘し、医療スタッフも充実させて、万全の体制を整え本大会に臨んだ。

（予選・本戦ラウンドの詳細は、本誌掲載の戦評を参照）

①予選ラウンド第 1 戦　3 月 15 日（日）15：00～
○日本 45 － 11 イラン（前半 24 － 5）
※予選ラウンド　日本 1 勝
レフェリー：タイ男子ペア

試合開始 50 秒主将本多の右サイドからの先制ゴールが決まり、7 分間で連続 7 得点。守っては先発ＧＫ藤間の好セーブもあり、高い位置からのアタッキングディフェンスで相手を撹乱して試合の主導権を握る。前半を 24 対 5 の大量リードで終了。後半点差が開き雑なプレーが懸念されるも、ペースは崩れず大差で試合終了。出場選手全員万遍なく得点を重ねまずまずのスタート。

しかし、イラン戦だけでは日本の実力は測れない。

②予選ラウンド第 2 戦　3 月 16 日（月）15：00 ～
○日本 51 － 8 インド（前半 30 － 4）
　※予選ラウンド　日本 2 勝
　レフェリー：中国女子ペア
　ゲーム戦術はイラン戦同様高い位置からの攻撃的ディフェンスで相手を撹乱。試合開始後 20 分間で 23 連続得点のワンサイドゲーム。60 分間この戦術を続けるも時折集中力が途切る。ディフェンスのダブリやイージーなシュートミスが続く。特に、右サイドからのシュートミスが目立つ。一応予選ラウンド 2 位以内を確定するも 19 日の韓国戦に勝って本戦に進むため栗山監督の厳しい戒めの檄が飛んだ。

③予選ラウンド第 3 戦　3 月 19 日（木）19：00 ～
●日本 20 － 32 韓国（前半 15 － 16）
　※予選ラウンド　日本 2 勝 1 敗
　レフェリー：イラン男子ペア
　格下のイラン、インドに予定通り勝つも、またもや宿敵韓国に屈し 2 勝 1 敗の 2 位で予選ラウンド終了。スコア的には惨敗であったが、日本のディフェンスシステムが徐々に選手に浸透し前半はシーソーゲームを展開し、後半 5 分には 1 点リードする。その後、決めるべきところのシュートミスやイージーミスが重なって集中力が途切れたのかディフェンスが雑になり 4 本の 7mT を含む 9 連続得点を許し 8 点差を広げられゲームの勝敗は決した。
　ハンドボール競技は点取りゲームでミス取り合戦。相手のミスを誘いそのミスに乗じて得点に結びつけるもの。それが仕上げのシュートが淡白で決まらなくてはどんな強固なディフェンスでマイボールにしても、また素晴らしいコンビネーションプレーでノーマークチャンスを作っても全く役に立たない。これは得点競技の肝腎要である。選手諸君は肝に銘じて欲しい。
　この予選ラウンド大敗の悔しさを、本戦ラウンド準決勝のカザフスタン戦を勝ち抜いて、決勝に出てくるであろう韓国に再度挑戦し、この屈辱を晴らして欲しい。

④本戦ラウンド準決勝　3 月 21 日（土）19：20 ～
○日本 37 － 21 カザフスタン（前半 17 － 11）
　レフェリー：バーレーン男子ペア
　立ち上がり横嶋かおるの鮮やかな先制ゴールでスタートし終始リードを続ける中、11 分 30 秒から東濱、田邉、藤井の 3 連続ゲット、26 分 40 秒から藤井、田邉、藤井の 7mT で 3 点連取し前半を 6 点リードで終了。
　後半に入り一進一退を続けるも 9 分 50 秒から田邉、横嶋かおる、田中、本多の 4 連続で 8 点差。19 分 20 秒から藤井、本多、田中、塩田、本多、錦織で 6 連続で 32 対 19 の 13 点差に広げ完全に試合を決める。レジェンド田中美音子の好配球と要所の得点、主将本多の 8 得点、田邉の 5 得点と海外組の活躍。チーム復帰の藤井が 7 得点しエースの本領発揮。そして東濱、横嶋かおる、川村のそれぞれ 3 得点ほか満遍なく点がとれる。守っては永田を中心に攻守が続く中、タイミングのいい GK 交代で藤間、飛田の好セーブを引き出し、ディフェンスシフトのタイムリーな切り替えなど的確な栗山采配が光る。この理想に近いゲーム展開を決勝の韓国戦に持ち込みたい。

⑤本戦ラウンド決勝　3 月 23 日（月）17：00 ～
●日本 22 － 36 韓国（前半 8 － 18）
　レフェリー：バーレーン男子ペア
　予選ラウンド敗退の悔しさを晴らせず一矢も報えず大敗。アジア大会を復元させるような内容で前半で勝負をつけられる。韓国はアジア大会後 3 名の若手を投入し常に次を見据えてチーム強化を怠らない。戦術も日本に対し攻守とも様々な手を打ってくる。
　日本と韓国の差は詰まらない。今後心した強化を進めなければならない。

　今般、幸いにして本戦ラウンドで準優勝し、世界選手権の出場権を獲得するも、またもや韓国の壁は厚く打ち破るに至らなかった。しかし、世界選手権出場をかけ日夜努力を重ねて見事 11 大会連続出場を果たした栗山監督以下選手並びにスタッフの皆さんに対し心からの敬意を表する。
　併せて、日頃から代表チームをしっかりと支えて頂いているスポンサー各社をはじめ選手の所属先ほか多くの関係者各位に対しても、衷心より感謝と御礼を申し上げる次第であります。
　また、現地におきましてインドネシア三井物産様に、選手団に激励の会食会を催して頂き、準決勝、決勝と会場で大きなご声援を頂きましたこと、選手団に取りまして何物にも代え難いお力添えで有りました。残念ながらご好意に報いることができませんでしたが、本誌にご報告させて頂き心から厚く御礼を申し上げます。
　今大会の反省と今後の強化策については、大会後直ちに強化委員会が開かれ検討されると思われるが、現場の努力で女子代表のレベルは確実に向上しているものの、アジアを勝ち抜き世界を制すには、現場頼りではおぼつかない。
　10 月名古屋で開催されるリオアジア予選は是非とも突破しなくてはならないが、ただ目先の勝利に一喜一憂せず、男女共 5 年後、10 年先の抜本的強化に取り組んで行かなければ何時までもアジアから世界に飛び出せない。
　5 月に現日本協会執行部の任期が満了する。現在、役員選考委員会で新役員候補者の発掘が急がれていると推測するが、新役員には英知と勇気を兼ね備えた、年齢男女を問わず積極的且つ情熱豊かで有能な人材を多数登用願いたい。そして、「協会力」を高めて抜本的強化策を推進し、2019 熊本女子世界選手権と 2020 東京オリンピックを制してハンドボールの華を咲かせて頂きたい。

第 15 回アジア選手権大会報告

監督　栗山 雅倫

2015 年 3 月 14 日、第 15 回アジア選手権大会が開幕致しました。大会は 3 月 24 日の最終日まで、インドネシアの首都・ジャカルタの地にて開催され、赤道直下の地にて、文字通り熱い戦いが繰り広げられました。今大会は 9 カ国が出場し、前回大会より若干小規模になりましたが、前回大会以上の観客動員数となり、賑やかのものとなりました。結果、準優勝で終えた日本代表女子チームにとって、親日家の多いインドネシアの地での大会は、とても印象深いものとなりました。

さて、今大会での日本代表女子チームが背負った目的として、2015 年 12 月、デンマークの地にて開催される世界選手権大会の出場権獲得が課されました。今大会の 3 位以上にアジア代表としての世界選手権大会出場権が付与される（実際にはその後、大会のテクニカルミーティングの場にて大会 4 位にも、アフリカ・パンアメリカ・オセアニア大陸との代表決定戦ののち、出場権が与えられることがアナウンスされた）こととなり、カザフスタン・中国には何があっても負けられない大会として位置づけられました。

今大会に至る経緯として、年度始めには通常通り 12 月に予定されていましたが、夏場から秋にかけて曖昧な情報が交錯し、急遽 3 月・ジャカルタでの開催が告げられました。そこから強化スケジュールの変更はもとより、日本リーグの開催期間の変更などが急ピッチで進められ、関係の方々のご苦労は、言葉にならないものと推察致します。

チームはそんな中、日本リーグでの戦いと平行し、ごく短い期間の合宿を複数回繰り返すことで、代表チームの戦術的感覚の維持につとめることを最優先し、活動を重ねて参りました。国際試合と国内との戦いでは、大きく異なるものがあることを熟知する選手は、不安も小さくない中での準備となりましたが、真摯な取り組みに対し、深く敬意を表したいと感じています。

大会は、アジア大会の覇者・韓国に次ぐ準優勝となり、課題であった世界選手権大会の出場権は獲得することが出来ました。出場権をかけたカザフスタンとの戦いにおいては、チームとして準備してきたものを、選手それぞれが十分に発揮し、確かな手応えを得ることが出来ました。しかし一方で、オリンピック予選で倒さねばならない韓国に対し、明確な敗戦を喫したことは今後の課題として残ります。短期間の準備のなか、世界選手権大会の出場権獲得を最重要視してきたチームにとって、今後の韓国代表チームに対する特化した取組は、待ったなしです。

いよいよリオオリンピック予選に向けたチーム活動も、秒読み段階に入ります。チーム一同、すべてをかけて戦い抜く所存です。皆様方の温かいご声援が何よりも励みとなり、頑張らせて頂いております。今後とも何卒よろしくお願い申し上げます。

今大会も、国内の皆様方、現地の邦人の方々に熱い応援メッセージを頂きました。あらためまして、深く感謝申し上げます。

アジア選手権を終えて

キャプテン　本多　恵

2015 年 12 月にデンマークで開催される世界選手権の出場権獲得の為のアジア選手権大会がインドネシア・ジャカルタで開催されました。

前回のアジア選手権はジョグジャカルタで開催されたので、インドネシアでの試合は 2 度目ではありましたが、やはり日本の気候との違いによりコンディションを整えることが難しい地でありました。その面も考慮して現地入りを早めてくださった関係者の皆様には大変感謝しています。

今回辞退国も出た為、直前で試合日程の変更があり、予選リーグでイラン、インドと対戦した後 2 日空いて韓国との対戦というスケジュールでした。

予選トーナメントでの対韓国との試合は前半互角の戦いができていましたが、後半シュートミスなどもあり少しずつ点差が開いていき、気づけば 10 点もの大差になっていました。決勝では前半でアジア競技大会と同じような展開にされてしまい、勝負を決められてしまいました。

アジア競技大会の敗戦は、残り 1 年でどうこの 10 点差をひっくり返したら良いのかわからなくなるようなものでした。前監督が率いたチームから 4 ～ 5 年もの間、ここまでの大敗をすることはなくなっていたからです。

あの敗戦は韓国に対して攻守共に何もできなかったショックも大きく、残り 1 年でこの差をどうやって埋めてひっくり返していけば良いのだろうと焦る気持ちになったことを今でも鮮明に覚えています。今回も点差から言えば大敗という結果です。しかし、次の 10 月のオリンピックアジア予選のたった 1 試合勝てばいい。その為にやるべきことは何か？　今ははっきりしています。その目標に向けて全てをかける覚悟でやっていきます。

オリンピック出場をかけた大陸予選の開催が名古屋に決まりました。招致に向けてたくさんの方々がご尽力くださったことと思います。この場を借りてお礼申し上げます。

名古屋で最高のパフォーマンスができるように選手スタッフ一丸となって頑張っていきますので、引き続き応援宜しくお願い致します。

戦　評

■3月15日（日）：Aグループ

日本　45（24-5，21-6）11　イラン

大会初戦の相手はイラン。前日のスカウティングをふまえてイランの特徴と対策をミーティングにて確認し、その上で日本の特徴である機動力をいかしたゲーム展開に持ち込もうとゲームに入った。

日本の予測的かつ積極的な防御が前半スタートから機能し、キャプテン高橋の速攻をはじめ、つぎつぎと得点を重ね7対0とする。途中、広いスペースでのポストプレーを守り切れない場面が見られたが、直ちに修正し、ペースをわたさない。前半15分以降はメンバーを入れ替え、防御ではラインコントロールを重視したシステムに変更、攻撃では田中、藤井をはじめ全員が持ち味を発揮し着々と加点、前半を24対5とした。

後半もスタートから前半同様、速攻で得点を重ね主導権をわたさない。セット攻撃になってもカットインを主体にした攻撃で確実に得点を重ねた。途中、相手の危険なプレーや理解に苦しむジャッジ等もあったが、それらも含めて対応し、45対11で1戦目を勝利した。

［個人得点］錦織・横嶋（彩）・原・川村・松村：5点、横嶋（か）：4点、藤井・角南・相澤：3点、本多・田中・石野：2点、永田：1点

■3月16日（月）：Aグループ

日本　51（30-4，21-4）8　インド

予選リーグ2戦目はインド。インドは今大会の初戦であるため、過去の情報から想定されることを確認、また何よりも日本として突き詰めていきたい課題を、前日のゲームより抽出し、その克服も含めてイラン戦に臨んだ。

日本は前戦と同様、積極的で予測的なオープン防御でスタートした。速攻を中心に6分29秒には8対0とするが、意図的な防御プレーになっていないことから、徹底すべきことの再確認のためタイムアウトを申請。そこから松村の速攻をはじめ全員がよく走り23対0までリード、前半を30対4とする。

ハーフタイムでは戦い方と戦術の確認し、後半はプレーの精度を上げていけるようベンチを含めた全員で指摘し合いながら臨んだ。原、錦織らを中心にお互いが内容を厳しく求め速攻、セット攻撃とも共通理解をより深めていく30分とし、51対8で2戦目を勝利した。

［個人得点］原：10点、松村：9点、錦織：7点、相澤：5点、東濱・川村：4点、藤井・永田：3点、本多・田中・石野・横嶋（か）・横嶋（彩）・角南：1点

■3月19日（木）：Aグループ

日本　20（15-16，5-16）32　韓国

予選リーグ1位を決める最終戦の対戦国は韓国。承知の通り今年度のヒロシマ国際、アジア大会といずれも敗れており、特にアジア大会では前半に勝負を決められた内容だっただけに、それ以降の取り組みを確かめる意味でも重要な位置づけの試合となる。まずはスタートを最重要視し、自分たちの目指すアグレッシブなゲーム展開に持ち込むことを狙って試合に臨んだ。日本は積極的なオープン防御でスタート。対する韓国も積極的なオープン防御でスタートした。序盤、韓国はCBを中心に鋭い1：1で間を強く割って攻めてきたが、日本も攻撃的なカバーで簡単にプラスワン状況にさせない。一方、日本は攻撃でパス＆ランで韓国の防御ラインの段差やアウトスペースを積極的に攻め込み、23分に13対11と日本がリード。その後返され15対16の1点ビハインドで前半終了。押し込まれての7mTやCBを厚く守ったときのRBの防御に課題を残した。

後半は日本の2連取でスタート。一気に逆転し4分で18対17とした。ここで韓国が防御を消極的な6：0に変更。日本は攻撃で効果的なシュートに持ち込めなくなってしまい、つくったチャンスも相手GKに弾かれてしまう。その間、相手の力強い割り込みや大型ポストの押し込みで7mTと退場が続き、9連続失点し20分で26対18まで一気に離されてしまう。その後も必死に戦うがCBとRB

を止められず、最終的に32対20で試合終了となった。これで予選リーグ2位となり、準決勝はカザフスタンとの対戦となった。

［個人得点］横嶋（か）：6点、藤井・原：3点、本多・田中・松村：2点、東濱・永田：1点

■3月21日（土）：準決勝

日本　37（17 - 11, 20 - 10）21　カザフスタン

準決勝の対戦国はカザフスタン。過去の対戦データと照らし合わせ様々なケースを想定するが、まず第一に相手のエースヒッターを抑えること、次にそこに連動していくプレーを寸断することをテーマにスタートすることにした。また、データにない新たな選手もいることからあらゆることに警戒しゲームに入った。日本のスローオフでスタート。相手の防御は5：1でトップが活発に動くシステム。日本はアウトスペースを強く攻め、カットイン、サイド、ポストとバランス良く得点できる理想的なOFを展開していく。守ってはLB側に特に強く牽制をいれる積極的な防御でスタートする。しかし、警戒していたエースを捕まえきれずに10分で7対6、うちエースの得点が4点でエースのフォローからプラスワンになる得点が2点という流れとなる。そこで、エースのマーク以外はスイッチを多用するシステムに変更した。ここからミスを誘うことに成功し3連取して16分で10対6。退場者をだす場面もあったが21分から2連取・3連取で17対11で前半を終える。

後半は相手の強くて重いプレーに負けないで足を運ぶことなどを念頭にスタート。8分までに2連続失点を2度うけてしまい16対20まで詰められる。しかしここからしつこい守りで相手のミスを誘い、13分までに4連続得点で24対16とする。さらに19分から25分に決定的な6連打で32対19とした。その後もコートに入るメンバーが次々に活躍し37対21で終了。決勝進出を果たすとともに世界選手権の出場権も獲得した。

［個人得点］本多:8点、藤井:7点、田邉:5点、田中:4点、横嶋（か）・東濱・川村:3点、塩田:2点、石野・錦織：1点

■3月23日（月）：決勝

日本　22（8 - 18, 14-18）36　韓国

決勝は今大会2度目の韓国戦。予選ラウンドでは後半序盤まで互角に戦ったものの、最後は20対32と大差をつけられての敗戦。一矢報いようと意気込んで挑んだ。前半は防御においてCBに対しマッチアップする場所が低く、展開される段階でさらに低くなってしまい、間を取られるケースを多発させ、そこからのポストや、確率の高いサイドなどにつなげられてしまった。また、戻りの局面での選手交代の際を巧みに狙われ攻撃の起点をつくられてしまった。立ち上がりで0対2とされ、1対2とするも1対6とされてしまう。攻撃においては相手防御の裏を攻め、ポスト、サイドへの展開が連動するようになり4対8まで追い上げる。しかし、その後韓国はエリア際を固めた6:0に変更。間を割ることができず攻撃が停滞し5対15まで離されてしまう。攻守共に修正をはかり8対16まで戻すが、その後2連取され前半を8対18とされる。

後半開始後も効果的なシュートチャンスがなかなかつくり出せず3連取され8対21となる。その後、一進一退となり13対25まで続くが、3連取を許し、13－28とされる。そこから意地を見せ3連取して流れをつかむが、ここで韓国は大型で重量のあるポストプレーヤーを2枚入れる攻撃に変更、これに押し込まれ次々と7mTとされてしまう。その後も、防御、攻撃ともに工夫をするが点差を縮めるには至らず22対36で敗戦となった。

［個人得点］横嶋（か）・藤井:5点、本多:4点、横嶋（彩）・川村：2点、錦織・角南・東濱・田邉：1点

ANA CUP
第39回
日本ハンドボール
リーグプレーオフ
男子：大同特殊鋼が4年連続18回目の優勝！
女子：北國銀行が4年ぶり2回目の優勝！

第39回日本ハンドボールリーグを終えて

日本ハンドボールリーグ機構 GM　家永 昌樹

女子・北國銀行、男子・大同特殊鋼の優勝で、今シーズンの全ての日程を終了いたしました。

今シーズンは開幕直前に、女子アジア選手権の日程変更に伴い、日本リーグ女子の日程がプレーオフを含めて大幅に変更を余儀なくされました。日程変更に際し、ファンの皆様、開催地の皆様、チームの皆様はじめ関係各位には多大なるご迷惑とご負担をお掛けいたしましたことをお詫び申し上げます。皆様のご理解、ご協力のもと無事に終了することができたことに深く御礼を申し上げます。

今シーズンも7月に開催地責任者と日本リーグ GM の合同会議で集客や会場作りのレギュレーションの統一を図るために研修会を行いました。昨年度より使用を開始している会場設営マニュアルもより改良を加え、会場設営の統一を目指しております。

また、集客に関しては、1,000 人超えの会場が増えていますが、日程変更の影響で 300 人台の会場もありました。その中で2月 28 日の沖縄県立武道館での試合では 3,150 人のお客様に会場に足を運んでいただきました。コラソンの自主運営で普段から地元との密着活動を続けた成果だと思います。続いてトヨタ紡織九州、オムロンが 2,000 人超えの集客と集めております。ホームゲーム平均がコラソン、大同特殊鋼、大崎電気、トヨタ紡織九州が 1,000 人を超える集客がありました。引き続き集客対策には開催地、リーグが一緒になって取り組んで参ります。

今シーズン初めての取り組みで、レフェリーと監督が一緒になって研修会を行い、活発な意見交換を行い、国際連盟から送られた DVD をもとに判定の統一とチームサイドの相互理解を深めましたが、初めての試みということもあって、判定のスタンダートを示すところまで行けていないのが、今後の課題として残りました。

レギュラーシーズンは、男子が大崎電気、女子は北國銀行が全勝で終えております。

男女とも上位チームの力は接近していますが、下位チームとの差が開いているのは事実です。リーグ選手、監督の底上げが急務だと実感しており、日本代表選手の多くは日本リーグ所属です。日本リーグの底上げを行うことで、代表チームの底上げに繋がると考えています。選手だけではなく所属チームでの監督のレベルアップも急務であり、来期よりリーグ内でも強化を進めて行く考えで、日本協会強化本部、日本トップリーグ連携機構と連携をはかりながらレベルの高い、監督の育成、選手の育成を行っていき、代表チームの強化に寄与していきます。日本リーグのレベルアップなくしては、代表チームのレベルアップはないと強く信じて、代表チームは代表チーム、所属チームは所属チームにならないようにハンドボール界が一体となり強化に取り組んで参ります。

第 32 回大会以来の男女別開催になったプレーオフ。女子は石川県小松市で行われました。レギュラーシーズンは、北國銀行が優勝しました。そして、決勝戦では立ち上がりからリードを許す展開でありましたが、終始落ち着いた展開で逆転し 4 年ぶり 2 度目の優勝を飾りました。

女子プレーオフでは急な変更があり、開催地を決定するにあたり、実行委員会で議論を重ねたうえで石川県に決定いたしました。開催地候補で手をあげていただいた他の候補地も熱心な PR をいただいたのですが、総合的に判断をしました。開催にあたり石川県協会の方々には、準備段階から多大なるご協力を賜り、プレーオフに相応しい運営と集客をいただき、この場をお借りして感謝申し上げます。

男子プレーオフはレギュラーシーズン全勝の大崎電気が準決勝を勝ち上がり、大同特殊鋼との対戦になりました。ここ 2 年連続して、大同特殊鋼は、レギュラーシーズン 3 位、4 位からのプレーオフ進出で優勝を果たしておりプレーオフ 4 連覇がかかっていました。序盤から両 GK のファインセーブで決勝に相応しい展開でファンを魅了いたしました。準決勝のトヨタ車体戦に勝利をした大同特殊鋼が勢いを決勝まで持続させ、日本リーグプレーオフ 4 連覇を成し遂げました。

今回のプレーオフは最後の 1 枚の切符をかけて、琉球コラソン、トヨタ自動車東日本、湧永製薬が最終日までもつれ込む激戦で、琉球コラソンが創部 7 年目して初出場を果たしました。ご存知の通り、琉球コラソンは男子では唯一クラブ型のチームで、クラブ運営はまだまだ安定とは言い切れませんが、昨年より、チーム力とともにクラブ運営力も上がってきております。周りが企業チームの中でクラブチームがプレーオフに進出したことは、リーグ全体、ハンドボール界全体にも大きな意味があると思います。

下部組織では、チャレンジディビジョンが東西に分かれ開催され、大同大学が 2 連覇を成し遂げました。リーグとしてもチャレンジディビジョンより琉球コラソンのようなクラブ型のチームが日本リーグに参戦してくれることを祈っており、アドバイス等を続けていきます。

来シーズンは日本リーグ 40 周年を迎えます。オリンピック予選や世界選手権等で変則的な開催になりますが、2020 年東京オリンピック以降、また 50 周年を見据えたビジョンを描き展開していきます。もっと強くして、もっと楽しくして、もっと役に立つ日本リーグを目指していきます。

引き続きのご支援、ご声援を賜りますように宜しくお願い申し上げます。

男子優勝

大同特殊鋼

大同特殊鋼ハンドボール部監督　末松　誠

はじめに、第39回日本ハンドボールリーグ・プレーオフを開催するにあたりご尽力いただいた日本ハンドボール機構をはじめ日本ハンドボール協会ならびに関係者の皆様に心より厚く御礼申し上げます。

この度、私たち大同特殊鋼フェニックスは第39回日本ハンドボールリーグ・プレーオフにおいて4年連続、18回目の優勝を果たす事が出来ました。これも一重に日頃から大同特殊鋼フェニックスをいつも支えてくださっている社員の皆様、そして地域、ファンの方々の力あってこその結果だと思っております。この場を借りて感謝申し上げます。

また、今シーズンは大同特殊鋼ハンドボール部の創部50周年という節目の年であり、この記念すべき年にプレーオフ優勝を果たす事が出来、スタッフ・選手一同大変うれしく思っております。

今大会を振り返りますと、準決勝のトヨタ車体、決勝の大崎電気共に今シーズン勝利出来ておらず、非常に厳しい戦いが予想されましたが、選手兼コーチの武田選手・地引選手・キャプテンの岸川選手等、中心選手達がチームを良くまとめてくれたこと、ベテラン・中堅・若手と各年代の選手達が自分の役割をしっかりと果たしてくれたこと、そして何よりチーム全員が一つになり持ち前の「チームワーク」を武器に戦い抜いたことが、今回のプレーオフ優勝という最高の結果に結びついたと感じています。

今シーズンは年間を通して思うような結果が出せず、辛く苦しい時期が続きましたが、そんな中でも選手全員が下を向くことなく日々の練習で努力しチームスローガンにもあります通り「挑戦」をし続けてくれました。そんなひたむきに頑張り続ける選手達の努力が最後の最後で実を結んだ事に、安堵するのと同時に非常にうれしく思っております。

最後に今年度を日本ハンドボールリーグ・プレーオフ優勝という最高の形で終えることができましたが、この結果に満足することなく、日々向上心を忘れずに「挑戦」し続け、いつも支えて下さる皆様、日本のハンドボールファンの皆様へハンドボールの魅力・素晴しさを伝えられるように、これから先も選手共々「挑戦」していきます。

今後とも大同特殊鋼ハンドボール部に変わらぬご声援宜しくお願い致します。

最高殊勲選手賞　久保 侑生

第39回ANA CUP日本ハンドボールリーグ・プレーオフで4年連続18回目の優勝を果たすことが出来ました。

今回優勝出来ましたことは、日頃から支えてくださいました会社の方を始め、ファンの方々のご声援があってこその結果だと思います。感謝申し上げます。

今シーズンは大同フェニックスにとって苦しいシーズンとなりましたが、プレーオフではチームが一丸となり、プレーオフ連覇へ挑戦出来たこと、持ち前の「チームワーク」を発揮し勝負できたことが、今回の結果につながったと感じています。

また、私自身2度目の最高殊勲選手賞に選出していただきましたが、日頃より多くの方からご指導・アドバイスをいただいたお陰だと思っております。そして何より、多くの場面で身体を張ってシュートコースを制限してくれたチームメイトに感謝します。この結果に満足することなく、4月に行われる東アジアクラブ選手権、昨年度獲得できなかったタイトルの奪取、プレーオフの連覇、そして日本チームの悲願でもありますオリンピックへの出場に向け、これからも日々のトレーニングを積み、努力を重ね、今回戴いた賞に恥じないプレーを心掛けたいと思います。

最後になりますが、今回のプレーオフ開催にあたり、日本ハンドボール協会をはじめ、大会運営関係者ならびに会場に足を運んでいただいた多くのファン・サポーターの皆様、本当にありがとうございました。これからも、観ている方々に"感動"を与えられるチーム・選手を目指して頑張りますので、今後ともご声援を宜しくお願いします。

写真提供：スポーツイベント社

女子優勝 北國銀行

北國銀行ハンドボール部監督　荷川取 義浩

始めに第39回日本ハンドボールリーグプレーオフの開催にあたり、ご尽力を賜りました日本ハンドボール協会並びに日本ハンドボールリーグ機構、石川県ハンドボール協会、小松市ハンドボール協会をはじめとします関係各位の皆様方へ心より感謝申し上げます。

この度のプレーオフにおいて、４年ぶり２回目の優勝を達成する事が出来ました。これもひとえに日頃よりご支援・ご声援を頂いております石川県体育協会並びにいしかわ総合スポーツセンタートレーニングルームの皆様方、石川県ハンドボール協会、竹内医院長をはじめ木島病院のスタッフ、サポーターの皆様方、ご家族の皆様方、そして、チーム強化に強力なバックアップをして頂いております深山相談役、安宅頭取をはじめとします役員・行員の皆様方のおかげだと思っております。この場をお借りして、心より感謝申し上げます。

第39回日本リーグレギュラーシーズンを18戦全勝で臨んだ地元小松でのプレーオフ。準決勝はレギュラーシーズン４位のソニーセミコンダクタとの対戦。前半、アグレッシブな攻守でリードを奪い、17対７で折り返す。後半に入って、ソニーセミコンダクタの粘りにあいながらも前半の貯金を活かして、31対20で勝利し、２年連続決勝へ駒を進めた。

決勝の相手は、準決勝で広島メイプルレッズに勝利したオムロン。昨年決勝で敗れ、３連覇を許したオムロンにチャレンジャーとして挑んだ。前半立ち上がり、昨日と打って変わり、プレッシャーからか精彩を欠き、思うようにプレーできない。４分に２対２に追いついたが、そこから14分間ノーゴールで６連続失点を喰らい、２対８と６点リードを許す。本日２回目のタイムアウトを取り、立て直しを図る。少し落ち着きを取り戻し、４連続ゴールで２点差に迫るも、８対11で前半を終える。ハーフタイムを挟み、やっと落ち着きを取り戻した選手達。８分までは３点差のままであったが、18連勝した自信が蘇る。ディフェンスが機能すると６連続ゴールで逆転に成功する。残りの時間帯も積極性を失わず、23対18で勝利。昨年のリベンジを果たし、４年振り２回目の優勝を達成した。決勝の前半は苦しい展開であったが、多くのサポーターの皆様方のご声援に後押しされ、仲間を信じ粘り強くプレーし、逆転勝ちに繋げられた。小松コーチがコート内外でサポートし、北岡先生・木村先生が最高なコンディション作りをして頂き、スタッフ・選手が一丸となって、地元小松でのプレーオフを制し、今まで支えて頂いた皆様方に少しでも恩返しができたのではないかと思います。

この結果に満足する事無く、多くの皆様方に夢と感動を与えられるようより一層精進致しますので、今後ともご支援・ご声援を宜しくお願い申し上げます。

最高殊勲選手賞　塩田 沙代

始めに第39回日本ハンドボールリーグプレーオフの開催にあたり、諸準備や大会運営等にご尽力いただきました日本ハンドボール協会をはじめ、多くの関係者の皆様方に心より感謝申し上げます。

この度、石川県小松市で開催されましたプレーオフにおいて、４年ぶり２回目の優勝をすることができました。これもひとえに日頃よりご支援、ご声援を頂いております石川県体育協会並びに石川県ハンドボール協会、サポーターの皆様方、ご家族の皆様方、そして、チーム強化に協力なバックアップをして頂いております深山相談役、安宅頭取をはじめとします役員、行員の皆様方のおかげだと思っております。この場をお借りして、心より感謝申し上げます。

準決勝のソニーセミコンダクタ戦では、序盤から自分たちの持ち味である堅守速攻で得点を重ねる展開となり、一人一人が役割を果たし31対20で勝利しました。決勝のオムロン戦では、序盤から相手にリードを許す展開となりましたが、全員で戦うハンドボールを目指して最後まで粘り強く戦うことができました。そして、地元の大応援団の後押しもあり23対18で勝利し、優勝することができました。この優勝は私たちの力だけでなく、陰で支えてくださった多くの関係者の皆様のおかげだと重ねて感謝申し上げます。このあと続く、東アジアクラブ選手権、全日本社会人選手権大会に向けて、気を引き締めチーム一丸となって戦っていきます。そして、応援してくださる皆様に恩返しができるように頑張りたいと思います。

北國銀行をはじめ、協会、サポーターの皆様には、これまでと変わらぬご支援、ご声援をよろしくお願い致します。

写真提供：スポーツイベント社

戦評

男子

■準決勝

大崎電気 31(15-13, 16-14)27 琉球コラソン

『レギュラーシーズン1位大崎が4位琉球の果敢な挑戦をはねのける！』

熱い二日間の戦いの火ぶたは、大崎17番植垣のシュートで切られた。コラソンは高いディフェンスラインの3対3、対する大崎は0-6ディフェンス。両チーム激しいポジションチェンジからのカットイン、ロングシュートでゴールを狙い、10分4対4。両者堅実なディフェンスで一歩も引かず、ロースコアの展開、20分9対9。先に流れを掴んだのはコラソン。GK内田のファインセーブからの速攻などで2点差をつけるが、26分1番エース棚原が退場。ここで流れが変わり、大崎が着実に得点し逆転に成功、ラスト5秒で9番森の速攻シュートが決まり、15対13大崎リードで前半終了。

大崎は後半開始1分、10番小室の速攻で3点差をつける。コラソンは1番棚原の個人技などで食い下がり、10分20対17。ここで大崎24番信太が退場、しかしGK木村のファインセーブでピンチを凌ぐ。このまま大崎が突き放すかと思われたが、コラソンは、15番松信のポストシュート、1番棚原の速攻の連続得点で、15分21対19と2点差に詰め寄る。互角の戦いが続き、20分23対21。24分コラソンの退場で流れを戻した大崎は25番元木の7mTや15番岩永の速攻などで着実に得点を重ね、31対27で終了。大崎のダイナミックな攻撃と、コラソンの果敢な挑戦は観客を魅了した。

大同特殊鋼 26(14-13, 12-10)23 トヨタ車体

『リーグ3位大同がリーグ2位車体を撃破し、11年連続決勝へ！』

開始1分、大同が4番藤江のシュートで先制。序盤、大同の高いディフェンス体型を車体が攻めあぐね、大同が先に流れを掴み、前半15分6対3。車体はフィジカルを生かして切り崩しにかかるが得点に繋がらず。前半18分車体はタイムアウト後に10番木切倉が華麗なスカイシュートを決めるが、大同22番高が攻守で活躍し流れを渡さない。前半23分、大同は11対5と一挙に6点差まで広げる。しかし車体は、14番光増のカットインや22番門山のパワフルな攻撃で徐々に大同のディフェンスを割り始め、前半14対13大同1点差リードで終了。

後半開始後も両者一歩も譲らない展開。ディフェンス2番笠原の活躍、GK21番甲斐のファインセーブで車体が流れを掴み、後半7分16対15、逆転に成功する。しかし大同の豊富な運動量は衰えず、固い守りからの速攻で、車体の勢いを止め、後半16分19対18逆転に成功。一進一退の攻防が続くが、大同はディフェンスで踏ん張り、GK12番久保の活躍や、22番高の打点の高いシュートで27分4点差まで広げる。車体はマンツーマンディフェンスを仕掛けるが、26対23大同勝利でタイムアップ。両者の気迫と体がぶつかりあう、白熱した好ゲームとなった。

■決勝

大同特殊鋼 23(10-8, 13-11)19 大崎電気

『大同が堅守で勝利を導き、創部50周年を優勝で飾る！』

会場を埋め尽くす大観衆の中、大同スローオフから、3番野村の鋭いカットインシュートで熱い決勝の舞台が開幕。互いに激しいプレッシャーの中、両チームのエース、大同22番高、大崎24番信太が豪快なシュートを決める。10分5対4大同がリードするも、得点差は開かない。大崎は18番石川のシュートで17分同点に追いつく。両チーム固い守りでロースコアの展開。先に流れを掴んだのは大同、鮮やかなサインプレーと速攻で9番武田が連続得点、25分9対7とする。大崎は27分に退場者を出しピンチになるが、GK12番木村のファインセーブで凌ぎ、10対8大同2点差のまま前半終了。

開始2分大崎は24番信太の個人技で1点差に詰めるが、3分、6分に連続で退場者を出し流れをつかめず。8分に大崎はまたも退場者を出してしまう。その間に大同は勢いに乗り、9番武田の速攻2連取で、10分15対9、一挙に6点差まで広げる。大崎も24番信太のカットインや9番森のポストシュートで16分16対13、3点差まで詰める。しかし運動量が全く落ちない大同は、GK12番久保のファインセーブもあり、20分19対13、またも6点差を開ける。23分4点差で大同が退場者を出し、大崎は追いつくチャンスを得るが、大同の堅守の前に得点を詰められず。その後も最後まで堅守が光った大同は23対19で勝利。プレーオフ決勝で予想外のロースコアの戦いとなった。

女子

■準決勝

北國銀行 31 (17-7, 14-13) 20 ソニーセミコンダクタ

『北國、ボールを持たないポストがアシストで活躍！』

ソニーのスローオフで前半開始。立ち上がりミスの続くソニーに速攻で3対0と北國がリードする。ソニーはたまらずタイムアウト。その後落着きを取戻し、互角の戦いに持ち込む。しかし、7分から北國の塩田、横嶋姉妹3人のコンビ攻撃と速攻で5連取、9対3と北國が完全に主導権を取った。ソニーはディフェンスシステムを変えながら守ろうとするがポストに崩され、17対7の10点差で北國がリードで折り返す。

後半、北國はメンバーを交代させながら点差を広げようと攻めるがミスも出始め、点差が開かない。逆にソニーは川村が元気を取戻し、ソニーらしい攻撃に持ち込み、石井などで食らいつく。しかし、後半から出てきた北國・河田のミドルシュートが決まり出すとソニーを突き放し始めた。最終的には後半互角の戦いとなったが前半の10点を北國が守り切った形で勝利した。北國の得点の多くはポストの動きを利用したものでボールを持たないアシストが目立つゲームであった。

オムロン 23 (11-9, 12-10) 19 広島メイプルレッズ

『両GKの好セーブが流れを変える！』

広島のスローオフで前半が開始。広島はサイド松村の3点とGK毛利の好キープで10分、4対0とダッシュ。しかしその後オムロンは藤井、稲葉で2対4に。ここから両チームに退場が出始めるがどちらもディフェンスが固く攻めきれない。20分からオムロン藤井の7mT2本で22分には7対7の同点になる。そこからはオムロンが抜け出し27分には10対7と広島を10分近く無得点に守り加点。最終的には11対9とオムロンがリードで折り返した。

ディフェンスが固い両チームは後半に入っても加点ペースは上がらない。13分までにオムロンは藤井の3点、永田、勝連で16対12とリードする。ここで広島はタイムアウトを取り、その後ソンの得点で16対13。ここで広島GK毛利がノーマークをシャットアウトすると俄然広島ペースになり16対14と追い上げる。しかしすかさずオムロンがタイムアウトをとり流れを切る。その後はオムロンGK藤間の好セーブが続き、23分には20対15と逃げ切り体勢になる。最終的には23対19でオムロンが逃げ切った。オムロンのディフェンス力とGKが光ったゲームであった。

■決勝

北國銀行 23 (8-11, 15-7) 18 オムロン

『北國銀行が地元で4年ぶり2回目の優勝！』

勝連、永田の連取で好スタートを切ったオムロンだが直後に退場者を出し、北国に追いつかれる。そこからオムロンは稲葉の3点を含む6連取で6点リード。このまま開くかと思われたが、北國が2回のタイムアウトで流れを取り戻し2点差まで追い上げる。更にオムロンが退場者を出し、追いつくかに思われたが、オムロンも意地の守りで11対8と3点リードで折り返す。

後半に入って一進一退の攻防を繰り広げるが、中盤に入り北國は八十島の4連取を含む怒涛の6連取で一気に逆転。本来のディフェンスからの速攻が決まり出すと益々ディフェンスが機能していく。19分にはこの日初の4点リードを奪い、疲れの見えるオムロンにGK寺田も好セーブを連発。残り4分を切っても4点リードを死守した北國が勝利を手にした。両チームともにGKが好キープを見せ、見ごたえのあるゲームであった。

■順位表　レギュラーシーズン

男子

順位		大崎	車体	大同	琉球	東日本	湧永	合成	紡織	北電	数	勝	分	敗	得点	失点	差	点
1.	大崎電気	＼	31○30 / 34○28	26○21 / 32○24	25○24 / 35○27	35○26 / 31○21	32○27 / 42○30	46○24 / 28○22	32○26 / 29○27	38○23 / 28○15	16	16	0	0	524	395	129	32
2.	トヨタ車体	30●31 / 28●34	＼	31○18 / 27○17	31○28 / 25○24	43○29 / 30○26	29○25 / 38○31	33○20 / 39○28	37○25 / 30○26	35○23 / 41○27	16	14	0	2	527	412	115	28
3.	大同特殊鋼	21●26 / 24●32	18●31 / 17●27	＼	29○20 / 25○20	26○16 / 30○25	28△28 / 24○21	25●28 / 20○13	25○19 / 35○23	27○20 / 31○23	16	10	1	5	405	372	33	21
4.	琉球コラソン	24●25 / 27●35	28●31 / 24●25	20●29 / 20●25	＼	29○25 / 30○27	24●25 / 25●27	29○25 / 27○21	24△24 / 28○24	32○25 / 29○16	16	7	1	8	420	409	11	15
5.	トヨタ自動車東日本	26●35 / 21●31	29●43 / 26●30	16●26 / 25●30	25●29 / 27●30	＼	30○27 / 28○27	36○33 / 33○28	33△33 / 28○23	28○24 / 25○23	16	7	1	8	436	472	-36	15
6.	湧永製薬	27●32 / 30●42	25●29 / 31●38	28△28 / 21●24	25○24 / 27○25	27●30 / 27●28	＼	27●31 / 37○21	26○25 / 23△23	34○16 / 31○19	16	6	2	8	446	435	11	14
7.	豊田合成	24●46 / 22●28	20●33 / 28●39	28○25 / 13●20	25●29 / 21●27	33●36 / 28●33	31○27 / 21●37	＼	21●28 / 33○26	29○22 / 29○24	16	5	0	11	406	480	-74	10
8.	トヨタ紡織九州	26●32 / 27●29	25●37 / 26●30	19●25 / 23●35	24△24 / 24●28	33△33 / 23●28	25●26 / 23△23	28○21 / 26●33	＼	30○22 / 29○24	16	3	3	10	411	450	-39	9
9.	北陸電力	23●38 / 15●28	23●35 / 27●41	20●27 / 23●31	25●32 / 16●29	24●28 / 23●25	16●34 / 19●31	22●29 / 24●29	22●30 / 24●29	＼	16	0	0	16	346	496	-150	0

※勝敗（○、△、●）の上が得点、下が失点を表す。

女子

順位		北國銀行	オムロン	メイプル	ソニー	三重	高山	名古屋	数	勝	分	敗	得点	失点	差	点
1.	北國銀行	＼	26○20 / 19○14 / 20○19	29○28 / 21○17 / 25○23	25○19 / 26○16 / 26○24	31○17 / 36○23 / 31○13	31○9 / 25○15 / 27○8	33○8 / 32○7 / 35○17	18	18	0	0	498	297	201	36
2.	オムロン	20●26 / 14●19 / 19●20	＼	17●24 / 25○18 / 17○15	32○21 / 26○18 / 21○18	26○17 / 31○11 / 28○19	29○12 / 29○16 / 22○11	31○7 / 30○7 / 27○9	18	14	0	4	444	288	156	28
3.	広島メイプルレッズ	28●29 / 17●21 / 23●25	24○17 / 18●25 / 15●17	＼	30○26 / 27○23 / 19○14	30○20 / 30○17 / 27○19	26○25 / 29○10 / 29○21	33○15 / 30○15 / 31○17	18	13	0	5	466	356	110	26
4.	ソニーセミコンダクタ	19●25 / 16●26 / 24●26	21●32 / 18●26 / 18●21	26●30 / 23●27 / 14●19	＼	28○21 / 32○23 / 23○22	24○17 / 25○21 / 25○12	26○12 / 30○10 / 30○13	18	9	0	9	422	383	39	18
5.	三重バイオレットアイリス	17●31 / 23●36 / 13●31	17●26 / 11●31 / 19●28	20●30 / 17●30 / 19●27	21●28 / 23●32 / 22●23	＼	21●25 / 17△17 / 25○10	25○9 / 33○8 / 30○19	18	4	1	13	373	441	-68	9
6.	飛騨高山ブラックブルズ岐阜	9●31 / 15●25 / 8●27	12●29 / 16●29 / 11●22	25●26 / 10●29 / 21●29	17●24 / 21●25 / 12●25	25○21 / 17△17 / 10●25	＼	30○11 / 20○14 / 20○13	18	4	1	13	299	422	-123	9
7.	HC名古屋	8●33 / 7●32 / 17●35	7●31 / 7●30 / 9●27	15●33 / 15●30 / 17●31	12●26 / 10●30 / 13●30	9●25 / 8●33 / 19●30	11●30 / 14●20 / 13●20	＼	18	0	0	18	211	526	-315	0

※勝敗（○、△、●）の上が得点、下が失点を表す。

■個人表彰

【男子】

〈プレーオフ表彰〉

- 最高殊勲選手賞　久保侑生（大同特殊鋼）…2回目
- 最優秀監督賞　末松誠（大同特殊鋼）…3回目
- 殊勲選手賞　木村昌丈（大崎電気）…初

〈レギュラーシーズン表彰〉

- 最優秀選手賞　棚原良（琉球コラソン）…初
- ベストセブン賞　甲斐昭人（トヨタ車体）…2回目
  - 高智海吏（トヨタ車体）…初
  - 信太弘樹（大崎電気）…2回目
  - 棚原良（琉球コラソン）…初
  - 小室大地（大崎電気）…初
  - 豊田賢治（大崎電気）…7回目
  - 松本雅史（トヨタ自動車東日本）…初
- ベストディフェンダー賞　千々波英明（大同特殊鋼）…初
- 新人賞　小塩豪紀（豊田合成）
- 得点王　棚原良（琉球コラソン）　126点…初
- フィールド得点賞　棚原良（琉球コラソン）　99点…初
- シュート率賞　豊田賢治（大崎電気）　0.779…2回目
- 7mスロー得点賞　棚原良（琉球コラソン）　27点…初
  - 樋口睦（湧永製薬）　27点…初
- 7mスロー阻止率賞　川添将典（北陸電力）　0.529(9/17)…初
- シュート阻止率賞　甲斐昭人（トヨタ車体）　0.412(186/452)…3回目
- フェアプレー賞　大同特殊鋼　75点／16試合（4.688点／試合）…4回目

【女子】

〈プレーオフ表彰〉

- 最高殊勲選手賞　塩田沙代（北國銀行）…初
- 最優秀監督賞　荷川取義浩（北國銀行）…2回目
- 殊勲選手賞　藤間かおり（オムロン）…初

〈レギュラーシーズン表彰〉

- 最優秀選手賞　横嶋彩（北國銀行）…初
- ベストセブン賞　寺田三友紀（北國銀行）…初
  - 藤井紫緒（オムロン）…6回目
  - 横嶋彩（北國銀行）…初
  - 宋海林（広島メイプルレッズ）…3回目
  - 高山智恵（広島メイプルレッズ）…4回目
  - 勝連智恵（オムロン）…2回目
  - 鍬場雅予（北國銀行）…初
- ベストディフェンダー賞　塩田沙代（北國銀行）…初
- 新人賞　松村杏里（広島メイプルレッズ）
- 得点王　横嶋彩（北國銀行）　117点…初
- フィールド得点賞　高山智恵（広島メイプルレッズ）　108点…2回目
- シュート率賞　八十島智美（北國銀行）　0.824…初
- 7mスロー得点賞　横嶋彩（北國銀行）　35点…初
- 7mスロー阻止率賞　山中絵里渚（オムロン）　0.385(10/26)…初
- シュート阻止率賞　藤間かおり（オムロン）　0.483(217/449)…2回目
- フェアプレー賞　飛騨高山ブラックブルズ岐阜　85点／18試合（4.722点／試合）初

【審判】

- 最優秀レフェリー賞　池渕智一
  - 檜﨑　潔
- 優秀レフェリー賞　太田智子
  - 島尻真理子
- 最優秀新人レフェリー賞　水野　遼
  - 山田祐輔

平成26年度 第38回全国高等学校ハンドボール選抜大会

女子：白梅学園高等学校（東京都）が初優勝
男子：北陸高等学校（福井県）、浦和学院高等学校（埼玉県）の両校優勝

開催期日：平成27年3月25日(水)～30日(月)
会　場：スカイホール豊田メインホール・サブホール、岡崎市中央総合公園体育館

第38回全国高等学校ハンドボール選抜大会について（お詫び）

公益財団法人日本ハンドボール協会会長　渡邊 佳英

日頃、皆様には日本ハンドボール協会の事業にご理解とご協力を賜り誠にありがとうございます。

さて、第38回全国高等学校ハンドボール選抜大会準々決勝において、得点のカウントミスに伴い不適切な取り扱いが行われたため、日本協会としては調査・検討・判断を行い、決勝戦を中止し、当該試合を含めて再試合の決定をいたしました。決定に至るまで判断に遅れが生じ、選手、チーム役員、保護者等関係に皆様、観客の皆様に多大のご迷惑と混乱を生じさせましたことを衷心よりお詫び申し上げます。

なお、再試合の再開については、当該４チームに確認したところ、全チームとも今後の対応が難しいとの意見がありました。そのため諸事検討の結果、当該全チームの同意もあり、再試合を行わず、下記の大会成績とする結論となりました。関係者の皆様に十分な説明の時間も取れず、大会運営においても多大なご迷惑をおかけいたしましたこと、誠に申し訳なく心よりお詫び申し上げます。

今後このような事態に至らぬよう、再発防止に努めるとともに迅速に対処する所存でございます。なにとぞご理解を賜りますようお願い申し上げます。

記

第38回全国高等学校選抜大会男子成績

優勝校：北陸高等学校
浦和学院高等学校　両校とする。

３　位：三重県立四日市工業高等学校
沖縄県立浦添高等学校
法政大学第二高等学校　３校とする。

なお、法政大学第二高校を３位としたのは、対浦添高校戦スコアが33 － 33の同点であったためです。

最終順位

■男子

優　勝：北陸高等学校（福井県）
浦和学院高等学校（埼玉県）

３　位：三重県立四日市工業高等学校（三重県）
沖縄県立浦添高等学校（沖縄県）
法政大学第二高等学校（神奈川県）

■女子

優　勝：白梅学園高等学校（東京都）
準優勝：小松市立高等学校（石川県）
３　位：香川県立高松商業高等学校（香川県）
四天王寺高等学校（大阪府）

優秀選手

■男子の部

【優秀選手】

西原正平　沖縄県立浦添高等学校
伊藤聖哉　三重県立四日市工業高等学校
山田暁央　法政大学第二高等学校
福本吉成　北陸高等学校
林　靖之　北陸高等学校
川崎　駿　北陸高等学校
関根源哉　浦和学院高等学校
山本祐輝　浦和学院高等学校
島田　純　浦和学院高等学校

■女子の部

【優秀選手】

谷　栞里　香川県立高松商業高等学校
前田みのり　四天王寺高等学校
浜　真尋　小松市立高等学校
渡部真綾　小松市立高等学校
中村千穂　白梅学園高等学校
橋爪空瑠美　白梅学園高等学校
櫛田明日菜　白梅学園高等学校

【最優秀選手】

青　麗子　白梅学園高等学校

第38回全国高等学校ハンドボール選抜大会は、平成27年3月25日（水）～30日（月）昨年に引き続き愛知県豊田市のスカイホール豊田、岡崎市の中央総合公園体育館を会場とし、全国9ブロックを勝ち上がった男女各41校が参加し開催されました。

3月24日（火）夕刻からの全校参加による開会式の後、男子は沖縄勢の連覇なるか、女子は佼成学園女子の３連覇なるか興味が尽きない中、６日間の大会がスタートしました。

大会の結果、女子は白梅学園高等学校（東京都）が初優勝し東京都代表が３連覇、準優勝は小松市立高等学校（石川県）、３位には香川県立高松商業高等学校（香川県）、四天王寺高等学校（大阪府）が夫々入りました。

一方男子は、準々決勝における得点のカウントミスに伴う措置として、北陸高等学校（福井県）、浦和学院高等学校（埼玉県）の両校が優勝、３位には三重県立四日市工業高等学校（三重県）、沖縄県立浦添高等学校（沖縄県）、法政大学第二高等学校（神奈川県）の３校と変則な結果となりました。

〔女子優勝〕白梅学園高等学校（東京都）

監督　須川 文敬

はじめに平成26年度第38回全国高等学校選抜ハンドボール選抜大会におきまして、大会運営に携わった各関係者皆様の開催運営のご尽力にあらためて深くお礼申し上げます。おかげさまで思い出多き愛知県大会となりました。

優勝が決まった瞬間の会場全体の興奮と子どもたちの歓喜は、東京にもどった今も鮮明に肌感覚として残っており、指導者としてとても幸せな瞬間を体験させていただきました。また、決勝直後に会場で観戦していただいた中学校の先生からは嬉しいメールが届きました。「素晴らしいチームですね。生徒たちの心も身体も技術も向上している姿を見ることができて感動しました。」これ以上のない祝福の言葉に感激するとともにほっといたしました。手塩にかけて育てられた子どもたちを私どもにあずけてくださった中学校の先生方にもあらためて感謝申し上げます。

さて今大会ですが、対戦させていただいた各チームには将来日本を背負って立つことが期待されている大型の素晴らしいアタッカーがいたことが印象に残ります。小松市立高校の渡部さん、高松商業高校の谷さん、玉野光南高校の秋山さん、氷見高校の藤さんら、一筋縄ではいかない高校生プレーヤーばかりでした。その選手たちを擁するチームとの対戦は相当の準備としっかりしたゲームプランが必要でした。その対応策を練って試合に臨むプロセスにも非常に緊張感があり、戦いを終えた今振り返ると全国大会ならではの楽しい時間でした。生徒たちの様子はというと、なんら緊張することなく普段通りの表情で頼もしく感じるばかりでした。普段レベルの高い東京都で育まれているおかげで、彼女らは困難な状況にも対処できる精神を自然と身に付け、現時点での実力を遺憾なく発揮することができたのだと思います。

最後に、最優秀選手賞をいただいた本校3年青麗子を含めこの世代の中から東京オリンピックの舞台で活躍するプレーヤーがうまれることを期待し、さらには日本のハンドボール競技の発展・活躍をご祈念申し上げ今大会のお礼の言葉とさせていただきます。

もう一言この場をおかりして。準決勝、決勝とジャッジをしていただいた河合威延氏、臼井健氏の両審判員の空気のような存在感と流れる試合をつくり出してくださったレフェリングにとても感動いたしました。とくにディフェンス場面において、高校生ならではの細かな技術を的確に判定してくださり、生徒たちの日ごろ鍛えた力を存分に出し切るフィールドをつくっていただきましたことに心より感謝申し上げます。今後の両氏の国内外におけるご活躍も一ハンドボール関係者の立場からご期待申し上げます。すばらしい笛、ありがとうございました。

【女子】

▼準決勝

白梅学園　25（11 − 9、14 − 8）17　高松商業

［戦評］白梅学園のスローオフで試合開始。先制したのは白梅学園。3 番青の豪快なロングシュートが決まる。その後も 7 番脇田のポストシュートなどで着実に点差を広げていく。一方の高松商業は、白梅学園の積極的なディフェンスを攻めあぐね、なかなかペースをつかむことが出来ず、2 対 6 と 4 点差をつけられたところで、たまらずタイムアウトを取る。タイムアウト後、高松商業は落ち着きを取り戻し、3 番谷のロングシュートや 2 番澤田のポストプレーなど、追い上げを見せる。結局、前半は 11 対 9、白梅学園の 2 点リードで終了した。後半は白梅学園ペース。いきなり 3 連続得点で 5 点差とし、ロングシュートやポストプレーなどでさらに点差を広げていく。高松商業も 3 番谷が攻守にわたる活躍を見せるが、白梅学園が 25 対 17 で高松商業を退けた。

小松市立　25（10 − 9、15 − 11）20　四天王寺

［戦評］四天王寺のスローオフで試合開始。両チームともなかなか得点が決まらない、静かな立ち上がり。試合が動いたのは、試合開始から 5 分が経過したとき、四天王寺 15 番西村の速攻で先制点をあげると、続く 6 番前田のカットインが決まり 2 対 0。すかさず小松市立は、今大会ここまで 3 試合で 44 点と驚異的な得点能力を見せるエース 3 番渡部の強打で応戦。3 番渡部、2 番浜を中心とした強打の小松市立と、素早いパスワークからポストを絡めた攻撃の四天王寺。互いの持ち味を生かした互角の戦いを繰り広げ 10 対 9、小松市立 1 点リードで前半を折り返す。後半最初の得点は四天王寺が決め同点とするも、小松市立の 4 連打で四天王寺はたまらずタイムアウトを要求。しかし、小松市立の勢いは止められず、徐々に点差は広がる。試合終盤、四天王寺は粘りを見せるも終わってみれば 25 対 20、決勝戦への切符は強打の小松市立が手にした。

▼決勝戦

白梅学園　18（12 − 8、6 − 7）15　小松市立

［戦評］女子決勝、激戦を勝ち抜いた白梅学園と小松市立の一戦は、白梅学園のスローオフで始まった。先制したのは白梅学園。7 番脇田のポストからのシュートが決まる。この後、ポストを織り交ぜた速いテンポのパス回しから、サイド・ポストと外と内から小松市立の DF を切り崩した。この間、小松市立も 3 番渡部を中心にシュートを放つも、白梅学園の 4：2DF に阻まれ、苦しい形に追い込まれ、思うように得点できない。前半 20 分までに 10 対 3 と点差が広がった。しかし、この後 3 番渡部のシュートが決まると、小松市立のエンジンがかかり始めた。DF では要所を守り抜き、白梅学園の OF の勢いを止め、OF では一挙 4 得点し、流れを引き寄せた。ここで前半が終了し、12 対 8 で折り返した。後半の序盤は、流れをそのままに小松市立のペースで進んだ。しかし、白梅学園もこのままでは終わらない。後半 7 分過ぎ、2 番橋爪が立て続けにシュートを決めると、そのまま 4 連取し、15 対 9 となり小松市立がタイムアウトを取った。このタイムアウトにより、また流れが変わった。小松市立 3 番渡部・5 番大和のシュートが決まり 4 連取で 14 対 16 と追い上げる。26 分過ぎ、白梅学園が 1 点を返したところで、小松市立は最後のタイムアウトを取り、すべては選手に託された。この後、両チーム一歩も譲らない攻防を繰り広げ、ついに終了のときを迎えた。18 対 15 で白梅学園が頂点に登りつめ、初優勝を飾った。

【男子】

▼準々決勝

北陸　24（11 − 8、13 − 14）22　藤代紫水

［戦評］北陸は 3 − 2 − 1DF でしかける。足を使った速さのある守りから 11 番久保の速攻で連取し、先制攻撃をかけるが、藤代紫水の堅い守りと、GK12 番中村の好セーブにはばまれリズムがつかめない。対する藤代紫水もサイドから打開を試みるも、両チーム点が入らない重たい展開。しかし、28 分藤代紫水の 7 m スローが GK の顔面に当たりレッドカードを出され失格となる。前半を 11 対 8 で折り返した。苦しい状況となった藤代紫水は、後半立ち上がりを攻められ、一時 6 点差をつけられるが、6 番鈴木の速攻などで追い上げ、残り 5 分で 1 点差に。最後までもつれた好ゲームは 24 対 22 で北陸が制した。

浦和学院　30（14 − 17、16 − 12）29　岩国工業

［戦評］浦和学院のスローオフで試合開始。先制したのは岩国工業。浦和学院の甘いパスを見逃さず、9 番中元がインターセプト。そのまま攻撃に持ち込み、先制点をあげた。その後、岩国工業のペースで試合は進み、10 分過ぎには 8 対 5 と 3 点リードを広げる。浦和学院も徐々にペースをつかみはじめ、3 番山本祐のロングシュートなどで追い上げを見せるが、前半は 17 対 14、岩国工業の 3 点リードで終えた。後半は一進一退の攻防が続く。後半 25 分過ぎに浦和学院は 3 番山本祐、17 番山本千のロングシュートなどで同点に追いついた。岩国工業も粘りを見せるが、後半 28 分、2 番助安の退場で万事休す。30 対 29、逆転で浦和学院が準決勝にコマを進めた。

四日市工業　21（12 − 8、9 − 10）18　大体大浪商

［戦評］両チームとも 4 − 2DF をしきお互いのエースをあつく守るシステム。浪商の 13 番松下の速攻、17 番梶本のカットインプレーで 2 対 0。四日市工業もスピーディに展開しシュートまで持ち込むが、浪商 GK の 21 番堀田の好セーブによりなかなか得点できない。お互いに DF の壁を破れず攻めあぐねるが、四日市工業がエース 3 番伊藤のパワフルなシュート、11 番水越の 2 連続得点により前半なかばには追いつき、逆転、そして加点し、12 対 8 で折り返す。4 点差はあるものの、流れはどちらにも来ていない。後半開始早々、四日市工業はテンポよくスピーディに展開し 2 連続得点で 14 対 8。浪商は四日市工業のエース 3 番伊藤にマンツーマン DF をし、攻めあぐねるすきに 5 連続得点で 16 対 17 と点差を縮める。四日市工業はなかなか得点できずにいたのだが、残り 7 分、浪商の 1 人退場をきっかけに得点し、残り 3 分 20 対 18。残り 1 分半にも浪商が 1 人退場し、エース 3 番伊藤の得点で 21 対 18 とし逃げ切った。

PHOTO SNAP 開会式より

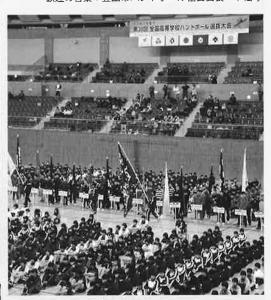
優勝杯・優勝旗等返還ならびにレプリカ授与：前年度男子優勝、沖縄県・興南高校（左）、前年度女子優勝、東京都・佼成学園女子高校（右）

開会の挨拶：（公財）日本ハンドボール協会専務理事・川上憲太

歓迎の言葉：豊田市長・太田稔彦

歓迎の言葉：豊田市ハンドボール協会会長・平松 学

選手宣誓：名古屋経済大学市邨高校・野崎美来（左）、愛知高校・大平幹也（右）

ポスター表彰者：明和高校・柴田果奈

大会プログラムの表紙をデザインしたのは、愛知県立明和高校一年の柴田果奈さんです。昨年の秋に高校の美術部顧問の先生から、前回も表紙のデザインに応募した生徒がいたとのことで応募してみたとのことです。ハンドボールは全く知らなかったそうですが、早速、部活動のハンドボールを見て応募されました。プログラムの表紙は止まった状態ではあるが、ハンドボールの勢いとか激しさを表現できないかとの思いで作成したと語ってくれました。躍動感溢れるデザインに負けないプレイが展開されることでしょう。

～日本代表に専属広報を～

企画・広報委員
早川　文司

フリースロー
Free Throw

リオ五輪予選の前哨戦とも言える女子アジア選手権で女子日本代表「おりひめジャパン」は、優勝こそ逃したが五輪出場への手ごたえを感じさせた。男子とともに夢の実現を楽しみにしたい。

五輪、五輪予選、アジア選手権、アジア大会、世界選手権などシニア代表だけでも、多くの国際大会がある。ハンドボール界に限らず、どの競技団体だろうと好結果を期待するのは当然である。そのためには確かな強化プランも必要だ。と同時に欠かせないのがメディア対応である。

これまでも機会あるごとに指摘させてもらったが、あまり改善されたとは思えない。意識も問題だし、あるいは“マイナー競技”の慣れかも知れない。しかしながら、2019 女子世界選手権、2020 東京五輪を控えて強化とともに最も取り組むべきテーマであると考える。

男女の日本代表メンバー発表や合宿、遠征などメディアに提供する素材は今後ますます増えてくる。これまではあまり活用していない合宿スケジュールや公開などをアピールしなくてはならない。他競技とのアピール合戦も激しさは増してくるはずだ。

そうした状況を考えれば、代表専属のメディア担当者は欠かせないだろう。片手間ではこなせないし、代表とすべての行動をともにし、スタッフ、選手らが練習、試合に心置きなく専念できるような煩雑さから解放する“環境づくり”の役割もある。一方で、取材依頼への割り振りも重要な任務だ。

世界選手権、五輪に向けては専属体制をとっても、一人体制では無理だ。「広報グループ」といった強化部門と緊密な連携を取りながら活動できるポストがほしい。日本ハンドボールの生い立ちから、チーム、個人のデータ作成、あるいは遠征・合宿におけるスケジュール把握など、すべてにおいて即座にメディアに即答できる体制が欠かせない。

強化がどうしても表面に出るが、その強化をサポートすることこそ重要な仕事である。2019、2020 年はすぐやってくる。一瞬の立ち止まりも許されない。協会としてどんな陣容、体制で受け入れるのか。準備に「早い」はない。ましてや、ラグビーも 2019 年には世界選手権がある。会場地も決まるなど、準備、アピールにすでに全力挙げて取り組んでいる。「ラグビーに後れをとるな」のキーワードで、球界を挙げて早急にこちらも“強化体制”を作り上げることだろう。それが両イベント成功への大きなカギを握っているのではないだろうか。

それぞれの活動の成否が、将来を見据えた球界への信頼と振興・普及を担っているように思える。

医事専門委員会だより

アンチ・ドーピングに対する啓発を！

―平成26年度日本体育協会加盟団体スポーツドクター代表者会議に出席して―

（公財）日本ハンドボール協会 医事委員　**大西信三**（筑波大学附属病院）

平成27年3月7日（土）、日本体育協会加盟団体スポーツドクター代表者協議会が行われました。この協議会は日本体育協会公認スポーツドクター相互の連絡を密にし、活動促進、相互研修、情報交換、広報活動を促進するためのもので、各都道府県・競技団体のドクターが出席します。協議会では講演形式でいくつかの情報提供が行われた後に、各都道府県・競技団体におけるスポーツ医・科学に関する新たな取り組みが報告されます。

情報提供の1つに、「女性アスリートに関する最新のサポート体制等について」国立スポーツ科学センター（JISS）の土肥美智子先生から講演がありました。2012年7月に開設された「女性アスリート専用電話相談窓口」に寄せられる相談内容、「LiLi女性アスリートサポートシステム」、「女性ジュニアアスリート指導者のための講習会の開催」といった内容で、今後ハンドボール協会医事委員会も取り組んでいかねばならない課題であると認識しております。

各都道府県・競技団体の報告では、他団体がどのような医事活動を行っているのか、日本ハンドボール協会の医事活動は他団体と比較して進んでいるのか？　遅れているのか？　そういったことを知る貴重な場でもありました。

演者の話を熱心に聞くドクター達

このような協議会での情報は「スポーツドクターが知っていればいい情報なのだろう」とみなさん思うかもしれません。しかし、日本ハンドボール協会には十分な数のドクターがいるとは言えず、選手や指導者の方々に知っておいていただきたいこともあり、今回の協議会で最も重要な情報であるドーピングにつき報告させていただきます。

ドーピング防止最新情報
（日体協スポーツドクター部会　山澤文裕先生の講演を参考に）

アンチ・ドーピング…難しそう、とこれまで避けてきた方々も今後は避けて通れません。なぜなら2020東京オリンピック開催に向け今後ますます厳しくなることが予想されるからです。

2015年になり、世界アンチ・ドーピング規定が改訂されました。①アスリートの厳格責任②厳格な制裁③ドーピング捜査④サポートスタッフの役割と責務の明確化⑤時効の延長⑥教育・啓発活動・情報提供、といった点が主な改訂点です。

ドーピング違反はスポーツの精神に反し、個人の健康を害するだけでなく、関係者・団体のイメージを損ないます。メディア露出の少ないハンドボールにとってはこのようなことは絶対に起こらないようにしなければなりません。トップリーグの選手だけに関わる話と思っていらっしゃる方々には、そろそろ目を覚ましていただきたく思います。大学生・高校生が検査対象なことはもちろん、若年者からの教育が必要です。もし現在の状況のままドーピング検査対象大会が拡大していったら…違反者が続出し、「またハンドボールか」という目でみられるようになってしまうかもしれません。選手を守るだけでなく、日本のハンドボールを守る意識での取り組みが必要と考えます。

競技者の責任・役割・責務

- アンチ・ドーピング規定について精通、遵守する
- いつでも、検体の採取に応じる
- 摂取するものに対して全て、厳格責任
- 医療従事者に対して、治療等を受ける際の自身の責任を伝えること
- 過去10年間、アンチ・ドーピング規則違反になったことの情報を開示
- ドーピング・ケースに関する調査／捜査に、積極的に協力

もし禁止物質が検出され、アンチ・ドーピング規則違反が認定されると…

個人の成績の自動的失効
＋
1回目の違反…原則として資格停止期間4年間
2回目の違反…2倍の資格停止期間
3回目の違反…永久の資格停止

以上の制裁が加えられます。資格停止期間は意図的、重大な違反の度合いによって0～4年間ですが、おそらく徐々に厳しくなるでしょう。

市販の内服薬はもちろんですが、漢方・サプリメント・目薬・外用剤にも禁止物質が含まれるものがあります。そのつもりはないのに「うっかり」ドーピング違反をしてしまうことが一番心配です。違反事例として多いのはやはりサプリメントです。栄養ドリンクについても多くの質問をいただきます。ドーピングに精通した薬剤師"スポーツファーマシスト"への相談（インターネット検索できます）・医療機関受診の際、医師にきちんと確認すること、また困った時はハンドボール協会医事委員への問い合わせを、選手へ指導お願いいたします。

また2015年から未成年者のドーピング検査に関して、親権者の同意書が必要になります。大会要項などに記載されていくことになると思いますが、こちらもみなさまの協力が不可欠ですので加えてご協力お願いいたします。

ハンドボールに携わるトッププレーヤー・指導者・協会関係者が御自身の影響力を認識し、アンチ・ドーピングに対する選手の価値観・行動変化に良い影響を与える「ロールモデル」であって欲しいと切に願い、報告とさせていただきます。

【報告】JOCスポーツ指導者海外研修員（2）

日本オリンピック委員会スポーツ指導者海外研修員　高橋 豊樹

2013年8月から日本オリンピック委員会スポーツ指導者海外研修事業の研修員として、コーチのキャリアをデンマークで積ませて頂いております。この場をお借りして現地の生活や近況を御報告させて頂きたいと思います。前回に引き続きデンマークハンドボール協会の方針を中心に現地の生活や近況を御報告させて頂きたいと思います。今回はタレントトレーニングにおけるリクルート戦略について。

タレントトレーニングのための選手の具体的な募集

DHFのタレント育成システムは、男子の場合U16の2年目（16歳）の選手とU18の1年目（17歳）の年齢層に対応する選手を対象として開かれます。 デンマーク西エリア（主にユトゥラン半島）と東エリア（主にシェラン島とヒュン島）の2エリアに分け、この年齢の選手を各35人、合計70人の選手をセレクションします。タレントトレーニングへの参加人数はフレキシブルに変化させることができるので、選手の総数は年によって異なる場合があります。しかしながらどのような場合でも70人未満であるべきではないとしています。数年前に、3エリアでの開催から2エリアへの変更の実施に伴い、約90人から70人まで全国のセレクションの数を縮小しました。

DHFのタレント育成の重要な考え方の一つとして、この年齢で誰が長期的に成功するかを決定することは困難であるというものがあります。しかしながら毎回、各グループ内には35人の選手を確保しておくべきで、各エリアマネージャーは、様々な理由で誰かが参加できなくなった時のために、常に予備選手のリストを作り、タレントトレーニングにそこから選手をセレクションしています。これらの作業は2つのエリアマネージャーとU 18・19のナショナルチームのコーチとの間の密接な協力によって各エリアで選手の数をほぼ一定にセレクションし、全国での選手の総数を一定に保つことが重要で、2つのエリアの選手の継続的な調節が行われています。

図1に見られるように選手たちは2つのルートを通じてタレントトレーニングにセレクションされます。1つはそれぞれの地区別に行われる、選手をセレクションするために、タレントコーチたちが視察する大会。この大会に怪我で参加できなかったり、大会だけでは観察しきれなかった選手に対して、彼の地区、タレントセンター、地域でのトレーニング中のパフォーマンスを視察することによってのセレクションがあります。これが2つ目のルートで、このルートは、クラブでのトレーニングや試合をDHFのコーチが視察することによってセレクションされます。この作業は、自分のチームや他の場所で見たり会ったりして、タレントトレーニングに推薦したい選手がいるクラブのコーチは、要求すれば、その機会を比較的簡単に実現することができます。

そしてDHFは、この要求・協力が、タレントセレクションの公募システムのネットワークが効率的に機能し、タレントが埋もれてしまうことなく可能な限り細かくみた上でタレント選抜されることにおいて非常に重要な役割をもつので、すべての要求を真剣に受け止めています。

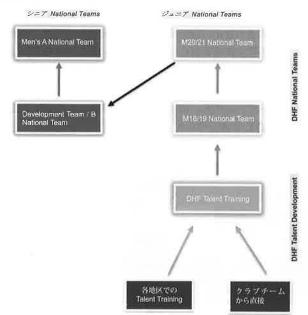



図1　タレントからナショナルチームのプレーヤーへ（男子チームを例に）

地区／タレントセンター／地域を通じて特定のリクルート

地区、タレントセンターと地域でのトレーニングは、M14二年目（14歳）とM16一年目（15歳）の選手対象のトレーニン

グです。したがって、このフレームワークの中では、コーチは、DHF のタレントトレーニングで要求される最低年齢よりちょうど２年若いタレントとトレーニングをすることになります。この２年間の地区、タレントセンターや地域でのトレーニングは、タレントが本格的なタレントトレーニングへスムーズに移行するための大切な２年間であり、全国のタレントトレーニングのかけがえのないパートナーです。

西地区の JHF を構成する８つの地区協会
東地区の FHF のタレントセンター
HRØ を分割した４地区

各地区では、それぞれ独自に選手をセレクションし、地域タレントコーチによってタレントトレーニングを計画・実践されます。そして２年間の後、西と東の地区それぞれで行われる DHF タレントトレーニングの為の大会で１つの区切りを迎えます。DHF タレントコーチはこの試合を見て、続いて、DHF タレントトレーニングに参加するタレントをセレクションします。トーナメントの前や大会中、また大会後にコーチ間（クラブのコーチ、各地区のタレントコーチ、DHF のコーチの間）で選手たちが普段どのようなトレーニングを受けてきたのかなどの対話の機会が持たれることは非常に重要なことです。その一方で、選手はセレクションの為の大会というプレッシャーのかかる状況のもとでどのようなパフォーマンスができるかを示すことはとても重要なことです。しかし、一方でセレクションされなかったということが短期あるいは長期のいずれかの上で失格されたわけではないことを強調しておく必要があります。ハンドボールのキャリアの中で自分の可能性に到達するためには多くの曲がった道があります。たとえこの時点でセレクションから外れてしまったとしても、その後 DHF タレント育成システムを介して様々な方法で再びセレクションされる可能性があることすべての関係者は認識しておく必要があり、そのことを選手に伝えることも忘れてはいけません。すでに述べたように、現在の M19 と M21 ナショナルチームには、セレクションの為のトーナメントでセレクションされていない、あるいは、この大会に参加すらしていなかった選手が多く選出されていたり、タレントトレーニングから一度離脱してその後また戻って来た選手もいます。このことは、この大会が選抜の１つの手段にすぎない（これですべてを決めるわけではない）ということと、このタレントシステムは一度それに入ると最後まで（ナショナル選手となり世界選手権でのメダルを獲得）連れて行ってくれるパイプではないということを強調するとともに、いくつかの方法で、確実にタレントを発掘しつつ、同時にむしろ何度もふるいにかけていくことが重要だとされています。

クラブの試合やクラブのトレーニングを通じてのセレクション

どんなにすべての当事者がセレクションにおけるプロセス（タレントトレーニング、セレクションの為の大会、各地区でのタレントトレーニング）においてトップのタレントを識別するのにどれだけの労力をかけたとしても、何人かのタレントは最初の頃に発掘されずに、埋もれてしまっている危険性が常に存在します。これはタレント育成システムが必ずしも毎日進行中のプロセスではないため、何人かのタレントは、地区や地域のトレーニングシステムによって発見されていないという事実に主に起因しています。このようなタレントは DHF のコーチが各クラブの試合や各クラブのトレーニングを視察することによって発見され、デンマークのハンドボールにとってのより多くの可能性を見出そうとしています。

各クラブのコーチや地区のコーチは自分のチームまたは他のチームに素晴らしいポテンシャルをもつ選手を発見した場合に、DHF のコーチに連絡し推薦することが可能です。そしてその情報はそのエリアを統括するエリアマネージャーに通知され、どのタレントコーチがその選手を見に行くべきかを決定し、いつどこでその選手を見に行くのかを決めることができます。特殊なケースでは、エリアマネージャーにその情報が入るのがタレントトレーニングの直前であった場合、直接タレントトレーニングに参加させるかどうかをエリアマネージャーは決めることが出来ます。これによって、多くの選手にチャンスが与えられ、セレクションの為の大会などの一時のパフォーマンスの評価だけで全てが決まってしまうこともなく、選手の各クラブでのトレーニングでのモチベーションにもつながり、さらには、選手もクラブも協会も、デンマークのハンドボール関係者全員が、日頃から、将来のデンマークハンドボールが世界でトップを獲り続ける為にデンマークのハンドボール関わる全ての関係者で必要な選手を発掘・育成しようという雰囲気に繋がっています。様々な条件やタイミング、ルートでタレントが選抜され、将来を見据えた育成がなされていきます。そして、１度セレクションされなかったとしても、その後選び直されるチャンスが様々な角度から入ってきて、選手、クラブ、協会がそれを受け入れる精神的な準備と余裕、それを可能にするシステムが用意されていると言えます。

寄稿

平成26年度 アスレティックトレーナー研修会

平成27年1月11日開催

田中美季（高松大学）

平成27年1月11日（土）、TKPガーデンシティ品川（東京都）にて開催されました『平成26年度日本体育協会公認アスレティックトレーナー（以下JASA-AT）研修会』についてご報告いたします。今回は、1994年に日本体育協会がアスレティックトレーナーの養成事業を始め、JASA-AT制度が発足して20周年を迎える記念研修会にあたり、私は、JASA-AT連絡会議運営委員として、この研修会に参加いたしました。

まず、オープニングセレモニーのあと、20周年記念講演として、日本体育協会指導者育成専門委員会アスレティックトレーナー部会会長の河野一郎先生が壇上にお立ちになりました。内科医であり、日本体育協会公認スポーツドクターでもある河野先生は、現在、日本スポーツ振興センターの理事長で、このJASA-AT制度の生みの親でもあります。この研修会では、20周年記念講演として、『未来のスポーツのあり方～これからのアスレティックトレーナーの役割～』というタイトルで、主にアスレティックトレーナー制度を発足させた理由、意義、そして、これからのアスレティックトレーナーの役割とは何かをお話になりました。先生は、1988年のソウルオリンピックで初めて日本選手団のチームドクターおよび本部役員をお務めになったとき、選手団本部のメディカルスタッフ—選手—選手個人に付いているメディカルスタッフ—競技団体のスタッフの連携のなさに非常に驚かれ、選手のコンディショニングに危機感を持たれたそうです。—お互いの立場で主張し合い、こんなバラバラなメディカルスタッフで選手のメダル獲得に貢献できるのかと—トレーナーとドクターの共通言語が必要だと強くお感じになられ、オリンピックに出場する全ての選手が最高のコンディションで大会に臨むことができる環境をコーディネートする人材の育成が急務だと思われたそうです。その後、日本体育協会公認指導者資格の中にアスレティックトレーナー制度を立ちあげ、選手団本部—選手—選手を取り巻くスタッフおよびメディカルスタッフの関係性を質の良いものにするためにマルチサポート事業などの環境整備にも努められ、2012年のロンドンオリンピックでは、過去最多となるメダル獲得の躍進を支えることになりました。また、2020東京オリンピック開催が決まり、JASA-ATとしては、また新たな活動の視点を持ち、さらに前進していかなければならないということをおっしゃいました。いわゆるアスレティックトレーナーのルーツとその未来をお話になったわけですが、改めて、私たちアスレティックトレーナーの役割を考えさせられました。

さらに、同じく20周年特別講演として、元プロ野球選手で2015年シーズンより福岡ソフトバンクホークスの監督に就任されました工藤公康さんがご講演されました。工藤さんは、みなさんご存知のとおり数々のタイトルを獲得され、ここで現役29年間、224勝という実績を振り返ると、工藤さんの投手としての“スゴさ”を改めて実感することができます。この現役生活29年の輝かしい成績の陰には、スポーツ医科学に裏付けられたコンディショニングに精通され、実践されてきた工藤さんの努力があることは広く知られています。2011年に現役を引退され、野球解説者として活躍される傍ら、筑波大学大学院に入学（スポーツ医学専攻）され、子どもの障害予防の活動にも積極的に取り組まれ、各地で野球教室を行っておられます。今回の記念講演では、『選手とアスレティックトレーナーとの関わり～トレーナーに求めること～』についてお話されました。ご自身の現役生活におけるトレーナーとの関わりをご紹介されながら、“みなさんは、トレーナーとして何ができるのですか？”という問いかけにハッとしました。また、工藤さんは、トレーナーが客観的に自分の身体の状態を把握し、分析し、良いコンディ

ションのときも悪いコンディションのときも適切にアドバイスしてくれたり、ケアをしてくれたので長い現役生活を送ることができたと…そして、僕のトレーナーは野球のことをよく知っていた…ともおっしゃっていました。競技のニーズアナリシス、傷害予防のプログラムデザイン・動作づくり、シーズンをとおしたコンディショニングプラン…アスレティックトレーナーは、単に選手がケガをしたときだけに必要なのではなく、その仕事の内容は、テクニカルコーチやストレングスコーチと重なり合う部分もあるということをお話されたのだと思います。

最後のプログラムは、『アスレティックトレーナーの将来』というテーマのシンポジウムが、4名のパネラーとJASA-AT連絡会議副委員長／国際武道大学の山本利春先生が座長のもと行われました。まず、JASA-AT連絡会議運営委員長の村木良博先生が『JASA-ATのミッションとビジョン～マスタープランの達成状況～』というテーマでお話しされました。JASA-ATの登録数が毎年増加していく中、"JASA-ATの認知度の低さ""職域の狭さ""他団体での独自のトレーナー資格認定の動き"といった問題が取り上げられてきました。そこで、平成22年に各関係部署での協議、全有資格者を対象としたアンケート調査による実態調査を踏まえ、これからのアスレティックトレーナーの活動の基本方針としてまとめたものがマスタープランです。今回は、JASA-ATの活動実績を積み上げ、活動基盤を確立し、さらには活動範囲を拡大させるためのプランの進捗状況の報告がありました。次に、『競技力向上のためのスポーツ医科学サポート活動』と題して、国立スポーツ科学センターの松田直樹先生が、ロンドン・ソチオリンピックマルチサポートハウスにおける活動など、アスレティックトレーナーが行う科学的なサポートにおける最新の情報をレポートされました。僭越ながら私もパネラーとしてこのシンポジウムに参加しました。私は、『都道府県体育協会、国体支援などの地方におけるトレーナー活動全般の視点から』というタイトルで、特に四国ブロックにおけるトレーナー活動の現状と課題についてご報告させていただきました。最後に、札幌医科大学の片寄正樹先生から『JASA-AT養成・資格認定制度の視点から』というタイトルで、JASA-AT資格制度が20年を迎え、その変遷と現状の問題の所在、その解決策についてのお話がありました。フロアからこれからのJASA-ATの活動方針等、いくつかのテーマについて、活発なディスカッションが行われました。

2014年度、JASA-ATの資格登録者が2,324名になりました。2020年東京オリンピックに向けてJASA-ATの役割にも焦点が当てられることになるでしょう。

しかしながら、私たちの活動にも問題点がないわけではなく、JASA-AT一人ひとりが自己研鑽を重ね、一層の資質向上に努め、危機感をもって日々の活動に取り組まなければならないと考えています。今回の研修会は、JASA-AT資格制度が20周年を迎えたこともあり、すべてのトピックスの中で、これからJASA-ATがどのような方向性をもって活動していくべきかを考えるよい機会となりました。とかくハンドボール競技は、球技の格闘技と称されるように外傷・障害とは切っても切り離せないものとなっています。ハンドボール競技の現場でのトレーナーの存在も当たり前のようになりました。トレーナーがスポーツ現場で活動するようになったルーツから見て、スポーツ現場では、トレーナーはケガのケアに特化されて考えられることが多いように思います。しかしながら、世界の動向から見てもケガを追いかける局面から"ケガの予防"にシフトしていかなければならないと思っています。現場でのトレーナー活動が"障害予防"を中心にシフトしていくために、ハンドボールの競技特性や選手の動作分析を様々な局面から行い、どのようなプログラムデザインによって障害予防をしていくのかという視点がこれから現場のトレーナーには必要であると、この研修会で強く感じました。また、このような視点は、指導者の方にも必要であると考えています。

協会だより

平成26年度第2回理事会議事録

日時：平成27年2月14日（土）
13：30～16：30
場所：味の素ナショナルトレーニングセンター研修室3・4
出席者（敬称略、名簿順）
理事：渡邊佳英、多田　博、市原則之、川上憲太、大橋則一、角　紘昭、津川　昭、江成元伸、西窪勝広、藤森　徹、志々場修二、朝生和光、土肥正彦、松井幸嗣、船木浩久、小越康雄、高山重雄、稲生　茂、庄司勝三、中村博幸、山本　一、佐藤公美、田中　守、村林　裕
以上24名
監事：伊藤宏幸、近森克彦
参事：半田忠史、中野利一、近久紀人、ネメシュローランド、三輪一義、佐藤　靖、大原康昇、小山哲央、山本　繁、田中　茂、佐久間克彦、田村修治、大村　久、後藤　登、越田義昭、仲田　稔、冨田　拓、兼子　真
以上18名
欠席者（敬称略、名簿順）
理事：蒲生晴明、藤井俊朗、池本　聡、東海林祐子
以上4名
以上、出席理事24名、出席監事2名、出席参事18名、事務局2名

〈理事会成立の確認〉
大橋理事より、本理事会は、理事定数28名のところ、出席24名、欠席4名であり、公益財団法人日本ハンドボール協会定款第41条に定められた、過半数以上の出席があり定足数を満たしているため、本理事会が成立していることが報告された。

開会にあたり渡邊会長より挨拶があった。
先月2回カタールを訪問した。1回はAHFの理事会で2回目はIHFの理事会だった。
AHFの理事会ではリオ五輪のアジア予選の開催地を決定した。合間に男子世界選手権の試合を観戦し、池渕・檜﨑ペアがサウジとスペインのめずらしく荒れた試合で毅然とした態度でレッドを出していた。これからも日本の審判員には世界で頑張って欲しいと期待する。カタールの大会で感じたことは、運営に素晴らしくお金がかかっている。試合を観てGKの強化が課題と感じた。カタール代表が2位に入賞したがほとんどカタール人が居ないチームで、それがいいのか悪いのか、選手強化について考えさせられた。

〈議長の選出〉
次に議長の選出が行われ、同定款第40条に基づき、会長が議長となった。

〈議事録署名人の選出〉
続いて、議長より議事録署名人の指名が行われ、同定款第45条に基づき、渡邊佳英会長、伊藤宏幸監事、近森克彦監事とすることが満場一致で承認された。

議事進行は、審議事項より行うこととした。

審議事項

1．平成26年度第二次補正予算案について
大橋財務担当常務理事より、平成26年度第二次補正予算案について説明がなされた。補正後、事業活動収入合計554,899,366円、事業活動支出合計538,093,814円、特定資産取崩収入33,000,000円、特定資産取得支出49,500,000円で、当期収支差額は305,552円となり、次期繰越収支差額は64,090,105円となることが説明された。
審議の結果、全員異議なく、本件は可決承認された。

2．平成27年度事業計画案について
川上専務理事より、平成27年度事業計画の概要が説明された。また、各本部長よりさらに追加説明がなされた。リオデジャネイロオリンピック出場権獲得に向かって取り組み、さらに2019年女子世界選手権、2020年東京オリンピックでのメダル獲得に向かって強化を推進していく。
村林理事より、事業計画書に昨年の実績の振り返りや数値目標が示されていないので、今後は入れていくべきではないかと指摘があった。
審議の結果、全員異議なく、本件は可決承認された。

3．平成27年度事業予算案について
大橋財務担当常務理事より、平成26年度第二次補正予算案について説明がなされた。補正後、事業活動収入合計578,124,000円、事業活動支出合計621,198,500円、特定資産取崩収入60,000,000円、特定資産取得支出16,500,000円で、当期収支差額は425,500円となり、次期繰越収支差額は64,515,605円となることが説明された。
審議の結果、全員異議なく、本件は可決承認された。

4．2019・2020強化特別支援金について
大橋財務担当常務理事より、2019/2020強化特別支援金について説明がなされた。田中参事より2016リオ五輪、2019女子世界選手権、2020東京五輪に向けての強化計画について説明された。大橋常務理事より、これらの強化計画を執行するためには、最低限2億5千万円が必要であり、その一部を日本協会登録者全員より支援いただきたく、平成27年度より、個人登録料に一律500円をプラスすることが説明された。
審議の結果、全員異議なく、本件は可決承認された。

5．女子アジア選手権派遣可否について
大橋総務常務理事より、3月にインドネシア・ジャカルタで開催される第15回女子アジア選手権への派遣可否ににつ いて説明がなされた。

審議の結果、全員異議なく、本件は可決承認された。

報告事項

1．強化報告（2016、2019、2020に向けて、大会結果等）

川上専務理事より説明された。強化計画詳細は先に田中参事より説明されたので、本年度6月以降の各カテゴリーの国際大会結果報告と強化の現状を記してあると説明された。

2．2016リオ五輪女子アジア予選、2019女子世界選手権、2020東京五輪進捗状況について

川上専務理事より、それぞれの状況が説明された。2016リオ五輪女子アジア予選は愛知県協会と準備を開始した。2019女子世界選手権は、準備スケジュールに従い行われている。2020東京五輪は、事前トレーニング（キャンプ）候補地ガイドが出来上がり、1月に公開された。

3．H27・28年度役員選考委員会について

川上専務理事より、役員候補選考委員会メンバーで3月上旬に第1回委員会を開催されると報告された。

※担当者都合により、ここで12の未成年競技者ドーピング検査に関する報告が行われた。

12．未成年競技者のドーピング検査時における親権者同意書他

佐久間参事より説明された。今年1月からWADAの規則が変更されたことに伴い、JADAが未成年競技者の親権者の同意書を得ることを決定。これを受け、ハンドボール協会は3月の選抜大会から実施すると報告された。

4．平成27年度Web登録について

大橋常務理事より、新年度登録は3月24日から開始すると説明された。

5．平成26年度日本協会表彰について

大橋常務理事より説明された。日本協会から推薦該当者がある場合には、連絡して欲しいと依頼された。締切は3月31日。

6．倫理委員会報告

藤森常務理事より、平成26年に倫理委員会が取り上げた事案について説明された。

7．平成27年度国内・国際大会・会議日程について

大橋常務理事より、平成27年度の国内・国際大会日程、中期の国際大会予定、平成27年度の日本協会会議日程について説明された。

8．日本選手権について

江成常務理事より、平成27年度より全日本総合選手権の回数を引き継ぎ、第67回日本ハンドボール選手権大会として愛知県で開催されることが説明された。

9．審判部報告

江成常務理事より、平成26年度のA・B級公認審判員審査結果と国際審判派遣について説明された。

10．指導普及報告（Jクイック、コーチセミナー、マスターズ等）

角常務理事より、指導普及委員会からのお願い等が説明された。

山本参事より、Jクイックハンドボールについて報告された。

小山参事より、ワールドマスターズゲームズの2021年開催と第23回全日本マスターズ大会について報告された。

大原参事より、第4回アジアビーチゲームズについて報告された。

角常務理事より、女性委員会の活動について報告された。

11．マーケティング本部報告

大橋常務理事より、平成26年度の活動報告と平成27年度の活動予定が報告された。

13．第39回日本リーグプレーオフについて

西窪常務理事より、男女別開催のプレーオフ及び4月の東アジアクラブ選手権について説明があった。

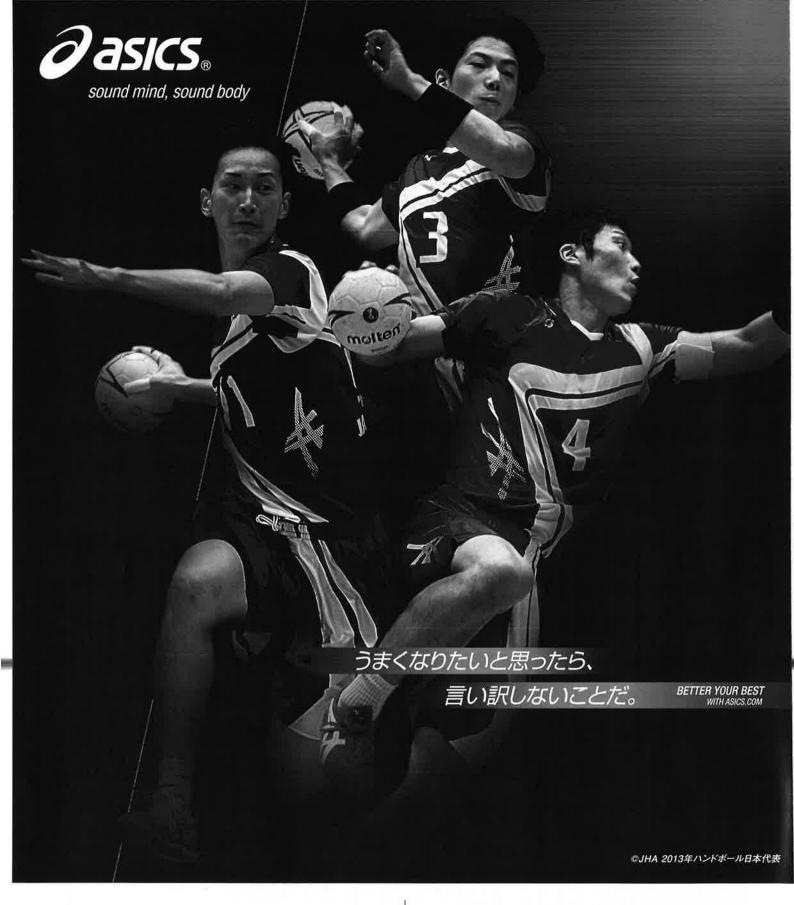
14．がんばれハンドボール20万人会

大橋常務理事より、1月末日現在の会員数等が説明された。

15．ブロック大会等日程

各ブロック理事より提出された平成27年度日程がまとめられた。

予定していた議案について全て終了したので、16時30分に平成26年度第2回理事会は閉会した。

上記の決議を明確にするため、渡邊佳英会長、伊藤宏幸監事及び近森克彦監事がこれに署名、押印する。

第38回全国高校選抜大会

開催期日：2015年3月25日（水）～30日（月）
会　　場：愛知県豊田市、岡崎市

【男　子】

▼1回戦

藤代紫水（茨城）28（13－5、15－7）12 松山工業（愛媛）
岡崎城西（愛知）24（15－9、9－11）20 利府（宮城）
天草工業（熊本）37（19－13、18－15）28 江戸川（東京）
浦添（沖縄）32（15－10、17－19）29 富岡（群馬）
不来方（岩手）32（18－13、14－10）23 市立岐阜商業（岐阜）
小林秀峰（宮崎）30（13－8、17－10）18 盛岡第四（岩手）
九州学院（熊本）32（19－9、13－21）30 駿台甲府（山梨）
四日市工業（三重）39（24－9、15－15）24 博多（福岡）
総社（岡山）32（18－8、15－11）19 明星（東京）

▼2回戦

藤代紫水（茨城）35（12－14、23－17）31 大分雄城台（大分）
下松工業（山口）35（23－8、12－11）19 紀北農芸（和歌山）
岡崎城西（愛知）32（15－14、17－6）20 函館大学付属有斗（北海道）
北陸（福井）48（24－17、24－14）31 天草工業（熊本）
浦添（沖縄）36（17－16、19－13）29 愛知（愛知）
小松工業（石川）34（16－14、18－11）25 関西大学北陽（大阪）
長崎日本大学（長崎）30（13－13、17－11）24 洛北（京都）
法政大学第二（神奈川）30（14－9、16－11）20 不来方（岩手）
浦和学院（埼玉）34（17－11、17－16）27 小林秀峰（宮崎）
高岡向陵（富山）34（12－18、22－14）32 昭和学院（千葉）
岩国工業（山口）37（14－9、23－10）19 春日丘（愛知）
神戸国際大学附属（兵庫）35（17－14、18－16）30 九州学院（熊本）
県立四日市工業（三重）36（17－11、19－7）18 学校法人石川（福島）
県立香川中央（香川）29（19－7、10－12）19 横浜創学館（神奈川）
大阪体育大学浪商（大阪）37（17－9、20－9）18 清水東（静岡）
総社（岡山）30（21－13、9－11）24 コザ（沖縄）

▼3回戦

藤代紫水 24（14－8、10－12）20 下松工業
北陸 30（19－11、11－10）21 岡崎城西
県立浦添 42（19－18、23－16）34 小松工業
法政大学第二 27（11－12、16－14）26 長崎日本大学
浦和学院 33（19－15、14－14）29 高岡向陵
岩国工業 32（15－17、17－10）27 神戸国際大学附属
四日市工業 29（14－14、15－12）26 香川中央
大阪体育大学浪商 19（10－8、9－9）17 総社

▼準々決勝

北陸 24（11－8、13－14）22 藤代紫水
浦添 33（11－19、22－14）33 法政大学第二
浦和学院 30（14－17、16－12）29 岩国工業
四日市工業 21（12－8、9－10）18 大阪体育大学浪商

▼準決勝

北陸 42（20－15、22－24）39 浦添

※準々決勝の結果より、参考試合とする。

浦和学院 27（14－12、13－14）26 四日市工業

【女　子】

▼1回戦

氷見（富山）26（17－7、9－11）18 大谷（京都）
那覇西（沖縄）24（10－10、14－11）21 愛知商業（愛知）
栃木商業（栃木）27（11－8、16－13）21 神戸星城（兵庫）
富岡東（群馬）29（18－7、11－16）23 不来方（岩手）
浦和実業学園（埼玉）28（11－11、17－13）24 星城（愛知）
鹿児島南（鹿児島）27（15－5、12－11）16 郡山東（福島）
華陵（山口）28（13－6、15－10）16 和歌山商業（和歌山）
大曲農業（秋田）35（15－13、20－13）26 天白（愛知）
今治東中等教育学校（愛媛）35（19－10、16－12）22 山陽（広島）

▼2回戦

白梅学園（東京）36（20－6、16－15）21 氷見（富山）
県立飛騨高山（岐阜）28（15－11、13－13）24 明光学園（福岡）
聖和学園（宮城）31（13－16、18－11）27 那覇西（沖縄）
玉野光南（岡山）33（17－9、16－10）19 栃木商業（栃木）
富岡東（群馬）39（20－5、19－8）13 函館工業（北海道）
城北（熊本）20（9－9、11－6）15 県立四日市商業（三重）
宣真（大阪）20（4－10、16－7）17 横浜平沼（神奈川）
高松商業（香川）26（13－12、13－9）21 浦和実業学園（埼玉）
小松市立（石県）27（13－8、14－12）20 鹿児島南（鹿児島）
佼成学園女子（東京）25（12－7、13－11）18 岐阜商業（岐阜）
昭和学院（千葉）33（13－12、20－11）23 佐世保商業（長崎）
名古屋経済大学市邨（愛知）31（16－7、15－12）19 華陵（山口）
大分（大分）31（15－12、16－9）21 大曲農業（秋田）
四天王寺（大阪）22（7－5、15－11）16 水海道第二（茨城）
高岡向陵（富山）34（18－9、16－13）22 駿台甲府（山梨）
横浜創英（神奈川）32（18－10、14－10）20 今治東中等教育学校（愛媛）

▼3回戦

白梅学園 21（12－2、9－10）12 飛騨高山
玉野光南 33（16－12、17－12）24 聖和学園
富岡東 21（11－13、10－7）20 城北
高松商業 22（13－4、9－12）16 宣真
小松市立 27（13－10、14－10）20 佼成学園女子
名古屋経済大学市邨 14（9－6、5－6）12 昭和学院
四天王寺 29（14－3、15－13）16 大分
横浜創英 25（10－6、15－9）15 高岡向陵

▼準々決勝

白梅学園 30（16－8、14－14）22 玉野光南
高松商業 23（12－9、11－9）18 富岡東
小松市立 23（16－7、7－4）11 名古屋経済大学市邨
四天王寺 25（11－9、14－9）18 横浜創英

▼準決勝

白梅学園 25（11－9、14－8）17 高松商業
小松市立 25（10－9、15－11）20 四天王寺

▼決　勝

白梅学園 18（12－8、6－7）15 小松市立

▶日本ハンドボール協会機関誌「ハンドボール」回覧簿◀

全国のクラブ・部活動でハンドボールをプレーしている皆さん！　日本ハンドボール協会機関誌「ハンドボール」(本誌）をぜひ仲間と共に読んでみてください。代表監督・選手のコメント、各種大会の結果報告、海外情報など、きっと皆さんのハンドボールライフに役に立つ情報が掲載されているはずです！

閲覧者	1	2	3	4	5	6	7	8
9	10	11	12	13	14	15	16	17
18	19	20	21	22	23	24	25	26

オリンピックミニ情報

リオオリンピックのチケット代金、円換算（1 BRL：39 円）すると、開会式のＡチケット（約 18 万円)、閉会式Ａチケット（12 万円)、陸上・バスケット・ビーチバレー・バレーボール決勝Ａチケット（4.7 万円)、サッカー・体操・水泳・飛込みの決勝Ａチケット（3.5 万円)、ハンドボール・柔道・テニスの決勝Ａチケット（2.7 万円)。(因みに、ハンドボールの最低チケット代は、2700 円)

がんばれハンドボール20万人会「サポート会員」3月入会・継続会員

【北海道】小島収治【山形】五島訓二【福島】今野雅益【茨城】稲吉　繁、田中汀子、菊田政行、箕輪光喜【埼玉】南木香乃、高田　誠【千葉】勝俣裕二、吉田　修【東京】森松誠二、田村公孝、西岡雅樹、山崎貴士、角屋圭子【神奈川】植村　繁、渡邊亜由美【福井】渡辺夕楽、渡辺大雅、藤坂尚輝、藤原大悟、吉岡七海、飛山空良、宮地一護、内山涼太、青柳　純【静岡】宮岸健次、村井美保子【愛知】齊藤慎太郎、西村亮治【兵庫】丸茂康子【奈良】森下純弘【広島】西山絵理【高知】有光正憲【長崎】藤山聖子

【5月・6月の行事予定】

【会議】……………………………………………………………

5月16日(土)　常務理事会
6月13日(土)　第1回理事会
6月27日(土)　第1回評議員会

【大会】……………………………………………………………

5月20日(水)～ 24日(日)
　高松宮記念杯第5回全日本社会人選手権大会（富山市）
6月22日(火)～ 27日(土)
　第3回U-22東アジア選手権（男・女）（台湾・台北市）
6月25日(木)～ 30日(火)
　第19回日韓スポーツ交流（派遣／女子）………（韓国）
6月26日(金)～ 30日(日)
　第20回ヒロシマ国際大会………………………（広島市）

HAND BALL CONTENTS May.

（公財）日本ハンドボール協会編『ハンドボール』第五五一号
平成二十七年四月二十六日印刷
平成二十七年五月一日発行
東京都渋谷区神南一－一－一
電話 代表 〇三－三四八一－二三六一
振替 〇〇一二〇－七－一〇二九三
編集兼発行人 川上憲太
定価 年間三三〇〇円